

<国 語>

1 編集の具体的方針

(1) 1学年を6分冊とし、各学年の第3巻及び第4巻を資料編とした。第3巻の資料編には、「文法」「漢字に親しもう（漢字の練習・小学校六年生で学習した漢字）」、第4巻の資料編には、「学習を広げる」のうちの「資料」及び「索引」を掲載した。

* 「一・二・三年生で学習した漢字」「一・二・三年生で学習した音訓」は、各教材末の「新出漢字」の箇所に分割して掲載してある。

* 各学年ごとの分冊ページは、以下のとおりである。

第1学年	第1巻 66ページまで 第3巻 239～262ページ 第5巻 139～188ページ	第2巻 67～138ページ 第4巻 263～330ページ 第6巻 189～238ページ
第2学年	第1巻 62ページまで 第3巻 237～262ページ 第5巻 131～190ページ	第2巻 63～130ページ 第4巻 263～328ページ 第6巻 191～236ページ
第3学年	第1巻 64ページまで 第3巻 215～230ページ 第5巻 133～180ページ	第2巻 65～132ページ 第4巻 231～310ページ 第6巻 181～214ページ

(2) 各学年の第3巻の資料編に、点字表記法の学習教材「点字の書き方」を追加した。第1学年にはその全文を、第2学年及び第3学年には「書き方の形式」以後を再録した。【資料1】【資料2】

(3) 各学年の巻頭にある「学習の見通しをもとう」及び「中扉」の教材名以外を削除した。

(4) 「この教科書で学習するみなさんへ」は、修正を行った上で、分冊ごとに掲載した。マーク類は原則削除し、マークを言語化して示した上で、「主な記号」は「この教科書で使われる主な用語」と見出しを修正し、「音声教材CDなどを利用する学習。」の部分削除した。また、最後に「原典教科書ページを利用しよう」と見出しを加え、次のように追加した。

原典教科書ページを利用しよう

原典教科書ページは、  で囲んでページ行左隅に示してある。

(5) 教材の前に、・印で示された内容は、第1星印をつけて示した。

(6) 全学年を通して、原典教科書の教材で全文を削除したものはない。また、できるだけ原典教科書に忠実に点字化するように配慮したが、細かい点では次のような修正を行った。

① 普通の文字の表記を点字化するにあたっては、点字表記の特性を踏まえて、可能な範囲で対応した。

② 表・図・グラフ等は、点字表記の可能性と生徒の理解度を考慮して、修正したり、削除したりしたものがある。したがって、指導の際には、適切な補助教材で読解を助けるように配慮することが大切である。

③ 文字の形、漢字の部首等の教材は、生徒の理解度を考慮して、修正を加えた上で必要に応じて点線文字で掲載した。

- ④ 地図は、内容を読み取る上で不可欠なものに限り、修正を加えた上で点図化した。
 - ⑤ 「右の」「左記の」「上の」「下の」などの表現をそれぞれ「これらの」「次の」「前の」「後の」などの表現に修正した。
 - ⑥ 「注」は原則として、見開き2ページ分を奇数ページ末に掲載した。また、読みを妨げないように掲載箇所に配慮をし、教材末にまとめて掲載したものもある。
 - ⑦ 「注意する語句」は、課題の提示を添えて、見開き2ページ分を偶数ページ末に掲載した。
 - ⑧ 記号等の修正は、読解を助ける場合に限り、原則として原典教科書どおりとしたが、箇条書きの行頭に用いられる中点（・）は削除し、全体の構造を明確にするための適切な記号に変更した。
- (7) 各教材末の「新出漢字」は、新出漢字部分を第1カギで囲み、欄外の漢字を見出し語として、教材末の音訓」と熟語、及び「付録」の用例の順に掲載した。また、漢字の訓を示す場合、送り仮名は第2つなぎ符を用いて示した。また、漢字ごとに行を替えて掲載した。

〔原典教科書 第1学年 26ページの例〕

はな「ぐも」り（どん□くも ㄱㅇㅇㅇ） □□「どん」てん□□「くも」りぞら□□れんずが□「くも」る。

- (8) 各教材末の「新出音訓」は、第1カギで示し、常用漢字表の音訓を第1カッコで示した。

〔原典教科書 第1学年 31ページの例〕

ㄱㅇㅇㅇほㄱㅇㅇㅇしがる（よく ほっする ほしい）

- (9) 古典教材は、次のように点訳した。
 - ① 日本点字表記法にしたがい、和語は歴史的仮名遣い、漢語は現代語の表記で点訳した。また、原典教科書において、漢語に歴史的仮名遣いによる振り仮名がつけられている場合、特に必要がない限りは生徒の理解度を考慮して削除した。
 - ② 和語に添えられた読み方は、本文の読みを阻害しないように、偶数ページの欄外に掲載したが、学習進度にしたがい、触読による読みやすさを優先して削除した場合もある。
 - ③ 現代語は、（現代語訳）として、本文の後に掲載した。
 - ④ 漢文は、日本点字表記法にしたがい、書き下し文に直して書き表した。漢文は表意文字である漢字だけで構成されており、基本的に点字による学習にはなじまないからである。そのため、点字では書き下し文で学習する。
- (10) 表現課題などで字数制限があるものについては、一応の目安として、普通文字200字を点字32マス11行と対応させた。

「例」 400字（原典教科書） → 400字（点字32マス22行）
- (11) 「漢字」は、字形に関するものは生徒の理解度を考慮して修正を加え、必要に応じて点線文字で示した。同音異義語や同訓異字については、漢字を音と訓とで併記するか、同様の意味を持つ別の熟語を挙げたり言葉を補ったりして漢字を特定できるようにした。その際、漢字の音訓は、原典教科書付録「常用漢字表」によった。

2 編集の具体的内容

1. 点字表記及びレイアウト等は、『日本点字表記法 2011年版』（日本点字委員会編集・発行）に準じて行った。
2. 第1学年3巻の「点字の書き方」は、表記法の主な内容を精選して掲載してある【資料1】。第2学年及び第3学年の3巻では、「書き方の形式」を再録して、点字で学習する生徒の学習活動の参考となるように意図している【資料2】。特に、古文・漢文の表記の扱いについては、1学年の掲載部分を利用し、表記や仮名遣いについて丁寧な指導を行ってほしい。また「漢文の書き方」では、訓点符号を掲載はしたが、参考としてであり、点字による学習者に訓点符号による学習を勧めるものではないことを留意してほしい。

3 編集の具体的内容

学年	ページ	行	修正事項	修正事項	備考
1年 1巻	6～7	7下	修正	主な記号→この教科書で使われる主な用語	点字の特性を考慮して
	13	下	修正	教科書を～学んでいこう。→枠で囲み、文毎に改行し掲載。	点字の特性を考慮して
	14	1	修正	文頭の点（・）は第1星印で表記	点字の特性を考慮して
	19	3-5	修正	アルファベットの間の中点は削除しマスあけにする。 h a n a b i r a はローマ字書きにする。	点字の特性を考慮して
		下8-20	修正	下段横書きの具体例について【資料3】	点字の特性を考慮して
	20	上1	修正	内容がひと目で→内容があとで	点字使用生徒の実態に即して
		上4	修正	内容ごとに欄を分けたり、色や矢印、図式、箇条書きなどを使ったりして、見やすさを工夫しよう。→内容ごとに行をかえたり、矢印や傍線、箇条書きなどを使ったりして、読みやすさを工夫しよう。	点字使用生徒の実態に即して
		下	削除	漢和辞典を削除	点字の特性を考慮して
	21	上7～13	削除	書き方の工夫 線を引く。図にする。色で印をつける。を削除	点字の特性を考慮して
			修正	記号やマークを付ける。→符号を付ける。 ノート例【資料4】	点字の特性を考慮して
	22	上	削除	つめを削除	※国語辞典は、点字辞典の表記に合わせた。 ※漢和辞典の構成を学ぶ教材として取り扱う。
			修正	国語辞典の例【資料5】	
		下	修正	漢和辞典の例【資料6】	
	23	下3下	修正	漢和辞典を使う→漢和辞典が使われる	※漢和辞典の構成を学ぶ教材として取り扱う。
			削除	「やってみよう」全文	
	26	下	修正	（目標）文頭の点（・）はそれぞれ1. 2. として教材の前に掲載。	点字の特性を考慮して
		脚注	修正	注意する語句は、偶数ページの脚注に、語句の説明は奇数ページの脚注に記載する。脚注の新出漢字は削除。	点字使用生徒の実態に即して
	34		修正	漢字を確認しよう【資料7】	点字使用生徒の実態に即して
	37	下	修正	マッピングの例【資料8】	点字の特性を考慮して
			追加	吹き出しは「」で囲まず記載。Aさんと追加。	点字使用生徒の実態に即して
	38	上18	修正	400字程度→400字（点字32マス22行）程度	点字の特性を考慮して
	39		修正	文章にまとめた例の下段▼は、それぞれ1. 2. 3. とし、（文章にまとめた例）の例文の前に記載する。	点字使用生徒の実態に即して
	40	上	削除	音声教材のマークは削除	点字の特性を考慮して
修正			先生からの連絡「持ち物は三つ。国語のノートとえんぴつ、それからフェルトペンです。→持ち物は、二つ。国語のノートと筆記用具です。」	点字使用生徒の実態に即して	
削除		メモの例の中の・えんぴつ・黒フェルトペンを削除	点字使用生徒の実態に即して		
41～42	下10～11	修正	番号や記号を付けたり、大事なところに線を引いたりして→番号や符号を付けたりして	点字の特性を考慮して	
41～42	下1上	修正	漢字の組み立てと部首【資料9】 漢字の組み立て部分は点図	点字使用生徒の実態に即して	
42	下	修正	練習問題【資料10】	点字使用生徒の実態に即して	
48	上15	修正	20字程度→20字（点字32マス1行）程度	点字の特性を考慮して	
49	3 5-10	修正	「ルビンのつぼ」を点図にした上で、文章を修正。 上の→該当頁 白い→中央の 黒い→周りの	点字使用生徒の実態に即して ※視点（見方）を変えることの意味を読み取る説明文。	

学年	ページ	行	修正事項	修正事項	備考
1年 1巻	50	3	削除	目からつぼの絵が→つぼの絵が	例が視覚優位の教材であるため、点字使用生徒が理解しにくい場合は、意図に沿う適切な具体例で指導することが望ましい。
		16	修正	上の図の場合はどうであろうか。→ここに1枚の図がある。	
	51	6	修正	左の図を見てみよう。化粧台の前に座っている女性の絵が見えるであろう。→別の図がある。化粧台の前に座っている女性の絵である。	
	54		修正	漢字を確認しよう【資料11】	点字使用生徒の実態に即して
	57	下	修正	将棋を話題にしたスピーチメモの例【資料12】	点字の特性を考慮して
	58	上5	修正	視線→顔の向き	点字使用生徒の実態に即して
		下	追加	イラストの吹き出しを、AさんとBさんの会話とする。	点字使用生徒の実態に即して
		上11	修正	視線→顔	点字使用生徒の実態に即して
		下15	修正	300字程度→300字（点字32マス17行）程度	点字の特性を考慮して
		下19	修正	視線→顔の向き	点字使用生徒の実態に即して
	59	下	修正 追加	スピーチの例の下段は、▼マークを削除し、例文の後に段落を加えて記述する。 話題の提示—第1段落 きっかけ—第2段落 気持ちの変化—第3段落 具体的な体験—第4・第5段落 終わりの挨拶—第6段落	点字使用生徒の実態に即して
	61	下	修正	情報の集め方の例【資料13】	点字の特性を考慮して
	64		修正	情報コラム③ 普通の文字の新聞（縦書き）の紙面構成の特徴を知る 紙面構成は点図で示す。【資料14】	点字使用生徒の実態に即して ※普通の文字の新聞の点図を通して学ぶ教材。あくまでも概略であるので、実際の新聞をもとにして説明するなどの指導が補足されることが望ましい。
	65	上	修正	音声で伝える→音声で伝える場合 文字で伝える→文字で伝える場合	点字使用生徒の実態に即して
66	上18	修正	漢字・平仮名・片仮名、句読点を適切に用いる。 →分かち書きや句読点を適切に用いる。	点字の特性を考慮して ※書き言葉の性質を学ぶ教材として、点字で学ぶ生徒にとって必要な内容にとどめ、特に墨字文化についての知識にはここでは触れていない。	
1年 2巻	68	脚注	修正	口語詩と文語詩の説明は、「魚と空」の詩の後へ。 詩人紹介は教材末へ。	点字使用生徒の実態に即して
	72	上	修正	味、食感、見た目、香りの順に掲載【資料15】	点字使用生徒の実態に即して
		下9	修正	100字程度で→100字（点字32マス6行）程度で	点字の特性を考慮して
	78	下1	修正	上の→この 「。（句点）」→句点（。）	点字の特性を考慮して
	80-87		修正	注は注記符をつけて、文章末に記載する。	点字の特性を考慮して
	88-89		修正	3 ポップの例 紹介箱の例【資料16】	点字の特性を考慮して ※点字使用生徒が行える内容に変更した。指導に当たっては、課題の意図に即した別の方法を出し合うなど工夫してほしい。
	89	下	削除	スピーチ例 イ. ア. キ. カ. を削除	

学年	ページ	行	修正事項	修正事項	備考
1年 2巻	90-92		修正	書名は第1カギで、著者または筆者名は第1カッコで囲んで示す。☐は削除し、「読み終えた本は、題名を書いておこう。」と修正。	点字の特性を考慮して
	94	下	修正	照り極（きは）マレバ→照り極（きわ）マレバ	歴史的仮名遣いは現代仮名遣いに修正
	115	下2	修正	「ヒロユキ」や「ヒロシマ」「ナガサキ」を片仮名表記にした。→「ヒロユキ」や「ヒロシマ」「ナガサキ」は原典教科書では片仮名で表記されている。	点字の特性を考慮して
	116			漢字を確認しよう【資料17】	点字使用生徒の実態に即して
	119	14-15	削除	「下は、その日のフィールドノートの一部である。」の文と写真削除。	点字使用生徒に実態に即して
	120-124	下	修正	図1～図3は、表に修正。それぞれ表1、表3、表5とし、本文の該当箇所を図から表に修正する。表1→表2 表2→表4に修正【資料18】【資料19】【資料20】	※表を活用した教材に変更している点を踏まえて、点字使用生徒の実態に配慮した指導が望ましい。
	126	上	削除	（学習の窓）以外の「図表」はそれぞれ「表」に修正。	点字の特性を考慮して
	127		修正	漢字を確認しよう【資料21】	点字使用生徒の実態に即して
	129	下	修正	（アンケートの例） 名前 歳→☆お名前と年齢を書いてください。	点字使用生徒の実態に即して
		下	削除	○を付けてください。を削除	点字の特性を考慮して
	130	下	修正	材料を整理した例 ○×△を削除して、文の上に番号を付ける。4. 5. のみ文末を次のように修正。 4. 「平成7年度……世論調査」→使わない 5. 「類義語・対義語……類義語」→使えたら使う	点字の特性を考慮して
	131		追加	2 実際の使われ方→表1 実際の使われ方	点字の特性を考慮して
			修正	3 「国語に関する世論調査」の結果→表2「国語に関する世論調査」の結果とし、表にする。 【資料22】	点字の特性を考慮して
	132	下7	修正	「視覚的に示す」→「わかりやすく示す」	点字使用生徒の実態に即して
	133	上	修正	「星」という漢字は、「セイ」「ショウ」という音、→「セイ」座と明「ジョウ（ショウ）」の「」で示した部分は、同じ漢字の音で	点字の特性を考慮して
	134	下	修正	練習問題【資料23】	点字使用生徒の実態に即して
135	上	修正	赤い傍線はすべて第1カギで囲んで示す。	点字の特性を考慮して	
	下		「指示する語句」の表は点図で示す。	点字使用生徒の実態に即して	
136	上	修正	傍線と矢印を削除した文を書き、2行目に（指示する語句→指示内容）の順で書き表す。	点字の特性を考慮して	
	下	修正	▼は削除し、（例）とし、波線部は「」で囲む。	点字の特性を考慮して	
1年 3巻	240	中	修正	○印→（例）、×印→（誤り）	点字の特性を考慮して
		下	修正	▼印→練習 とし、問題文「線を引き」→「抜き出し」に修正。（文法について、以下同様に課題を修正）	
241	上 中	修正 削除	一字下げる→ニマス下げる 「文章と段落」の図は削除し、上段の「これを段落という。」の後に次の文を挿入。 「段落」は、いくつかの段落が結び付いて、大きなまとまりを作る場合もある。	点字の特性を考慮して	

学年	ページ	行	修正事項	修正事項	備考
1年 3巻	242	中6 ～9	修正	×印→(不適切な例)、○印→(適切な例)	点字の特性を考慮して
		11～	修正	×印→(不適切な区切り方)と修正し、(適切な区切り方)として例文を掲載。	
	245～ 248	中 上中	修正	文の組み立ては、もとの文、文の組み立て説明の順に掲載。【資料24】	点字の特性を考慮して
	249	9	修正	例文は以下のように修正し、付属語の後に掲載。 ★自立語は(じ)、付属語は(ふ)と書き表す。 空を飛ぶ鳥のように、私は自由でありたい。 空(じ)を(ふ)飛ぶ(じ)鳥(じ) の(ふ)ように(ふ)私(じ)わ(ふ) 自由で(じ)あり(じ)たい(ふ)	点字の特性を考慮して
		下	修正	問題文は分ち書きせずを書く。	
	257～ 260		修正	漢字の学習 小学校6年生で学習した漢字 【資料25】	点字使用生徒の実態に即して ※指導は、漢字の意味や音訓に関する知識を身につけられるように教材指導時に文脈の中で適宜行う。コンピューター等を使用する際の漢字変換につながるように配慮する。
261～ 262		削除	小学校6年生で学習した漢字一覧は削除		
1年 4巻	274～ 279		削除	図1、2、4および写真とその説明文は削除。	点字使用生徒の実態に即して ※触察により変化を理解しやすいようにした。
			修正	図5は10年刻みの数値を取り、表に修正。	
	280～ 281		修正	書く手順、感想文、書き方の工夫の順に掲載。 書き方の工夫に対応する傍線部は、説明文の後に該当部を抜き出して掲載。	点字の特性を考慮して
	282～ 283		削除	台詞の第1カギは削除し、二重カギは第1カギに変更して掲載する。	点字の特性を考慮して
	286	上5	修正	紙の中央に→最初に	点字使用生徒の実態に即して
			修正	マッピングで連想する・図式化して考える【資料26】	
	288～ 289 288 289	上13 上16	削除	図、表、円グラフ、棒グラフ、折れ線グラフの具体例は削除し、見出しのみ(例)として掲載。	点字使用生徒の実態に即して
			削除	視覚的に	
			修正	矢印、色→矢印や 線の色や→線の種類や	
	290 291	下	追加	後付け(点字で書く場合は、前付けとすることが多い。)	点字の特性を考慮して
修正			署名一行末を二マス残すように書く。 宛名一署名の後に、行頭に書く。		
上		修正	返信のときは次の部分を書き改める→往復はがきの返信を普通の文字で行うときは次の部分を書き込んでもらう。		
292	上	修正	ひと目でわかる→すぐにわかる	点字使用生徒の実態に即して	
		修正	タイトルを「文章の推敲・書き方の形式」に修正。		

学年	ページ	行	修正事項	修正事項	備考
1年 4巻	292	3	修正	原稿用紙の使い方→書き方の形式	点字の特性を考慮して
		6-7	削除	原稿用紙の上で推敲するときは、左の例のような記号を使うとよい。	点字の特性を考慮して
		図	修正	原稿用紙例は推敲前と推敲後の順に掲載。	点字の特性を考慮して
		下9	修正	漢字や仮名遣い、送り仮名→分かち書きや仮名遣い	点字の特性を考慮して
		下11-	修正	原稿用紙の使い方→書き方の形式【資料27】	点字の特性を考慮して
	293		修正	傍線を削除し、もとの文、敬語の説明の順に掲載。	点字の特性を考慮して
	294	上	修正	デザインされた文字（普通の文字）の形を「書体」といい、目的に応じてさまざまな書体を使い分けられている。	点字使用生徒の実態に即して
			修正	この教科書の原典教科書の本文と、欄外や教材末にある漢字欄の新出漢字は、形が違っている。	
		下	削除	各書体名には1.～4.と番号を付け、書体例は削除。	点字使用生徒の実態に即して
	325			常用漢字表 付表【資料28】	点字使用生徒の実態に即して
	327～ 330			「文学的な文章を読むために（折込）」及び「説明的な文章を読むために（折込）」は、目次の分類に従い「資料」の末に掲載。	点字の特性を考慮して
329	下段 裏見返	削除	視覚的に情報が示されるので	点字使用生徒の実態に即して	
		削除	「色いろの言葉」は削除		
1年 5巻	140		修正	（原文）を分かち書き無しで掲載。 訳は（現代語訳）とする。 注の前の※は削除。	点字の特性を考慮して
			削除 修正	歴史的仮名遣い部分の読みは、句の形で原文を抜き出して脚注とする。	
	141	上	追加	普通の文字では「ウキ」と書き表す。	点字の特性を考慮して
	143		追加	歌の意味の前に（歌の意味）を挿入。	点字の特性を考慮して
	144 145	2	修正	私たちも→人々も	点字使用生徒の実態に即して
			削除 修正	かるたの絵は削除。 上段の右側の札→ここに一組の札があります。一方の下に並ぶ三枚の札に書かれた→次の三つの下の句を三つ並べる。	
	146		削除	絵は削除。	点字の特性を考慮して
			修正	「竹取物語」が描かれた例として、それぞれを1.～4.で並べる。	
	155		削除 修正	絵は削除。歴史的仮名遣いの読みは削除し、（ ）で現代仮名遣いを入れる。	点字使用生徒の実態に即して
	157	左下	補足	・ういの奥山（ふつうの文字では「うみのおくやま」と書き表す）	点字の特性を考慮して
				・登るべきよーなし（ふつうの文字では「ヨー」は「ヤウ」と書き表す）	
	159	下1	追加 削除	下段の現代語訳を（現代語訳）とする。 絵は削除。	点字の特性を考慮して
			修正	3. 200字→200字（点字32マス11行）	
	161	上7	修正		点字の特性を考慮して
164～ 169 167	上3	削除 修正	点字では学習しないため、「漢文の訓読」は削除。 漢文を読む【資料29】	点字の特性を考慮して ※点字では漢文を書き下し文で学ぶことを、指導の際に留意する。	
		削除	絵、図、地図は削除。		
	下	修正	産卵時期と産卵場所の表【資料30】	点字の特性を考慮して	

学年	ページ	行	修正事項	修正事項	備考
1年 5巻	172		修正	漢字を確認しよう【資料31】	点字の特性を考慮して
	173	左下	追加	吹き出し部分は、枠を削除し、「Bさん」にする。	点字の特性を考慮して
	176～ 177	上段 下段	追加 追加 削除 修正	(話し合いの例) 下段の①～④を、話し合いの例の中に入れ込む。 下段を(話し合いのポイント)とする。 傍線はすべて削除し、下段のそれぞれの箇所引用する。	点字の特性を考慮して
	178	上	修正	○○ △△ □□→すべて「・・・」に変更。	点字の特性を考慮して
	179	上 下 下	削除 修正 修正	絵は削除。 付箋の例を(整理した例)とし、絵のタイトルを「作品」として最初に記載する。 「上の絵の」→「作品」 「書き出そう」→「書き出す」 「確認していこう」→「確認する」	点字使用生徒の実態に即して ※原典教科書を生かした修正に留めているために、指導においては単元の目標をふまえ、点字使用生徒の実態に即した教材(立体物など)を工夫することが必要である。
	180～ 185		削除	絵はすべて削除。	点字使用生徒の実態に即して ※原典教科書を生かした修正に留めているために、指導においては単元の目標をふまえ、点字使用生徒の実態に即した教材を工夫することが必要である。
	182	上2 上15 下段	削除 追加 修正	「付箋」は削除。 600字→600字(点字32マス33行) (根拠を書き出した例)【資料32】	点字の特性を考慮して
	183		修正 追加 修正	傍線は〰を「傍線(a)」、一を「傍線(b)」にする。 鑑賞文の例のあとに(文章の構成)とし、 第一段落－魅力 第二段落－魅力の具体的な説明(音) 第三段落－・・・ 下段を(書く時のポイント)とし、鑑賞文の例のあとの(文章の構成)の後に入れる。	点字の特性を考慮して
186～ 187		修正	旧仮名遣いはすべて現代仮名遣いに直す。	点字使用生徒の実態に即して	
1年 6巻	190～ 193		削除 修正	写真はすべて削除。 文中の方言に()でルビがふってあるものは、すべて文中に入れる。	点字の特性を考慮して
	195	下段	削除 修正	地図は削除。 地名を順に並べる。 桜のマークは(本文)とする。	点字の特性を考慮して
	200		修正	旧仮名遣いはすべて現代仮名遣いに直す。	点字使用生徒の実態に即して
	202～ 214		削除	絵はすべて削除。	点字の特性を考慮して
	217	下段	修正	400字→400字(点字32マス22行)	点字の特性を考慮して
	218		修正	漢字を確認しよう【資料33】	点字の特性を考慮して

学年	ページ	行	修正事項	修正事項	備考
1年 6巻	219	下9	削除 修正	▼古池や蛙飛びこむ水のおと→▼、傍線部は削除。 (例) 古池や蛙飛びこむ水のおと 「おと」一体言(名詞) (例) — 1行目と2・3行目	点字の特性を考慮して
	219	13	修正	(例) — 第1連	
	220	4	修正	(例) — 1行目と3行目。2行目と4行目。	
	221	8～ 9	修正	客=蜂 赤い部屋=チューリップの花	
	222		修正	漢字3 漢字を、点字と点線文字で掲載【資料34】	
	223	下	修正	練習問題 【資料35】	
	225	下	追加	吹き出し部分は、枠を削除し、「Aさん」にする。	
	226	上	追加	(メッセージの例)の下段を(工夫した点)とする。	
	227	下	修正	推敲の例 【資料36】	
	229	上 下7	修正 修正	単語の性質を見つけよう 【資料37】 (行く+ます→行き・ます) → (「行く」と「ます」 →「行きます」)	
	231	下	削除	ポスターセッションの図を削除。	
	232～ 233	上	修正	ポスターの例 【資料38】	
	233 234	左下	追加 修正	「魅力について①」を(発表メモ)とする。 ポスターセッションの例は下段を(ポスターセッションの ポイント)として、上段の後に示した。	
	2年 1巻	14	上	削除	
29			修正	漢字を確認しよう【資料39】	点字の特性を考慮して
30		左下	修正	(メモの例)は表題を起こして点線枠で囲む。 【資料40】	点字の特性を考慮して
32～33			修正	現代語訳は、原文の後に(現代語訳)と表題を起こす。	点字の特性を考慮して
33		下9	修正	400字程度→400字(点字32マス22行)程度	点字の特性を考慮して
37		4	削除	「ここではA4判一枚にまとめる。」の一文を削除。	点字使用生徒の実態に即して
		18	修正	見やすさ→読みやすさ	点字使用生徒の実態に即して
		下	削除	「紙面構成の例(A4判)」を削除。	点字使用生徒の実態に即して
38		上	修正	職業ガイドの例【資料41】	点字の特性を考慮して
39		上	追加	強大(「強い」と「大きい」) 強弱(「強い」と 「弱い」 強敵(「強い」と「敵」)	点字の特性を考慮して
39～40		下-上	修正	二字熟語の主な構成【資料42】	点字の特性を考慮して
40		下	修正	練習問題 【資料43】	点字の特性を考慮して
43		下	削除	注の中の「左の記録計は～記録できる。」の一文を削除。	点字使用生徒の実態に即して
45			削除	図1・図2を削除。	点字使用生徒の実態に即して
46		18	修正	「図3が～わかる。」→その結果、三羽が異なる深さ で餌を捕っていることがわかった。	点字使用生徒の実態に即して
47			削除	図3を削除。	点字使用生徒の実態に即して
50			修正	漢字を確認しよう【資料44】	点字の特性を考慮して
51	2	修正	100字程度→100字(点字32マス6行)程度	点字の特性を考慮して	
54	上	修正	進行案の例【資料45】	点字の特性を考慮して	
58	下2	修正	「玉」と「石」→「ギョク(たま)」と「セキ(いし)」	点字の特性を考慮して	

学年	ページ	行	修正事項	修正事項	備考
2年 1巻	61	下8	修正	<p>(例) 紙を□。</p> <p>1. 裂く (二つ以上に切り離す。)</p> <p>2. 破る (引きちぎってだめにする。)</p> <p>(例)</p> <p>1. 戸を□。</p> <p>2. 傘を□。</p> <p>1. の場合は「あける」とも「ひらく」とも言えるが、2. は「ひらく」とは言えても「あける」と言うことはできない。</p>	点字の特性を考慮して
	62	上7 上図	追加 修正	<p>「図の←→の関係は対義語である。」という文を追加。</p> <p>下記のように点図化する。</p> <p>□□□□ (対義語の例)</p> <p style="text-align: center;">「男性」 ←→ 「女性」</p> <p>「年上」 兄 姉</p> <p style="text-align: center;"> ↑ ↑</p> <p style="text-align: center;"> ↓ ↓</p> <p>「年下」 弟 ←→ 妹</p>	点字の特性を考慮して
2年 2巻	64～68		修正	歴史的仮名遣い部分の読みは、句の形で原文を抜き出して脚注とする。くれなゐの (くれないの) 作者注は、本文末にまとめて掲載する。	点字の特性を考慮して
	69	1	修正	上の言葉の組→あとの (気持ちを表す言葉の例) にある言葉の組	点字の特性を考慮して
		上	修正	イラスト内の言葉を以下のように修正し、69ページ8行目の後に挿入する。 (気持ちを表す言葉の例)	点字の特性を考慮して
		下9	修正	100字程度→100字 (点字32マス6行) 程度	点字の特性を考慮して
	74	上1	修正	①～⑤の単語を看板や道の指示に従って、分類してみよう。どこにたどり着くだろう。→(1)～(5)の単語を分類してみよう。 (1)時計 (2)歌う (3)いきなり (4)あらゆる (5)楽しい	点字の特性を考慮して
上		修正	イラストを次のように修正し、下段7行目の後に挿入する。 (形が変わらない) 主語になる—私 本 時計 修飾語になる—いろんな きらきら いきなり あらゆる	点字の特性を考慮して	

学年	ページ	行	修正事項	修正事項	備考
2年 2巻				(形が変わる) 述語になる－白い 読む 楽しい	
	86		修正	読み終えた本には、題名の上に☑チェックマークを付けよう。→読み終えた本は、題名を書いておこう。	点字使用生徒の実態に即して
	105		修正	漢字を確認しよう【資料46】	点字の特性を考慮して
	111		修正	①～⑩のうち、①④⑩の傍線部を削除し、番号は詰めて(1)～(8)とする。	点字の特性を考慮して
	113	下16	修正	・署名 下方に書く。→2. 署名…行末を2マス残すようにして書く。	点字の特性を考慮して
		下17	修正	・宛名 署名の後に、上方に書く。→3. 宛名…署名の次の行の行頭に書く。	点字の特性を考慮して
		下20	追加	「後付け」の部分について、宛名の文に続けて次のように追加する。 ・・・「御中」と書く。 ☐☐☐☐☐なお、点字の手紙では前付けとすることが多く、その場合は宛名・日付・署名の順に書く。	点字の特性を考慮して
	114	下	修正	(表書き) 1. 宛先の住所一端に寄りすぎ・・・。 2. 宛名－封筒の中央に書く。 (裏書き) 差出人の住所・名前－表書きと重ならないように書く。	点字の特性を考慮して
	115	2-4	修正	教科書なども参考に、清書しよう。・・・丁寧に書くことを心がける。「封筒の書き方」を参考にして封筒も作成し、実際に手紙を送ろう。	点字使用生徒の実態に即して
	118	上	修正	イースター島の地図は、点図で表す。	点字の特性を考慮して
	124		修正	漢字を確認しよう【資料47】	点字の特性を考慮して。
	125～ 126		修正	敬語の種類各挿絵は、(例)として、次のように修正し掲載する。 (丁寧語) (例)内田さんが歌い「ます」。 (尊敬語) (例)来賓の方が「お話しになり」ます。 ☐☐☐☐☐「お話しになります」の「ます」は、聞き手への丁寧語である。 (謙譲語) (例)父が先生を「ご案内し」ます。 ☐☐☐☐☐「ご案内します」の「ます」は、聞き手への丁寧語である。	点字使用生徒の実態に即して
	126	下	修正	尊敬語と謙譲語の例【資料48】	点字の特性を考慮して
	127	上1-3	修正	※謙譲語の中には、*印の語のように・・・ → ☐☐☐☐☐謙譲語の中には、次にあげる語のように、敬意を表すべき動作・行為が向かう先を必要としないものがある。 参る、おる、申す、いたす、存じる 接頭語を付けた語 「愚」見、「弊」社、「拙」著、「粗」品 (例)私は、明日から、・・・。	点字の特性を考慮して

学年	ページ	行	修正事項	修正事項	備考
2年 2巻	127	上 12-14	修正	敬語の組み合わせの例文を次のように修正。 (例) 郷土史を研究されている西村先生から、ご著書をいただきました。関心のある方にお貸しします。 「研究され」「ご著書」→「西村先生」への尊敬語 「いただき」→「西村先生」への謙譲語 「まし」→丁寧語 「お貸しし」→「関心のある方」への謙譲語 「ます」→丁寧語	点字の特性を考慮して
		下	修正	○印は(適切)、×印は(不適切)として各例文の文末に掲載。	点字の特性を考慮して
	128	上1-5	修正	漢字には、「夏は暑い」「お湯が熱い」「厚い本」の「あつい」のように、同じ訓をもつものがある。また、同じ音をもつ漢字も多く、「お目にかかる機会」「性能のよい機械」の「きかい」のように、同じ読みの熟語もある。 パソコンなどで漢字に変換するときには、使い分けに注意しよう。	点字の特性を考慮して
		上	修正	上段の図を削除し、次のように修正する。 メールを作成しているAさんが、漢字をどのように変換するか考えている。 前回お会いしたのは、「あつい」夏の日でしたね。その後、お元気ですか。次にお会いできる「きかい」を楽しみにしています。	点字の特性を考慮して
129	下	修正	練習問題【資料49】	点字の特性を考慮して	
2年 3巻	238		修正	文中のゴシック体は「」で囲む。(以降P252まで同様)各用語ごとに、下段の説明を分割して掲載する。	点字の特性を考慮して
		上11	修正	「文節どうしの関係と文の成分」とし、その後第1星印を付け、次の文を追加する。 ※()内は連文節の場合をあらわす。	点字の特性を考慮して
		16-18	修正	「文節どうしの関係と連文節どうしの関係」と見出しを付けて掲載。【資料50】	点字の特性を考慮して
	239	4-7	修正	(自立語と付属語)、(活用の有無)とし、それぞれの語を掲載。【資料51】	点字の特性を考慮して
	240		修正	動詞・他動詞・自動詞・形容詞・形容動詞の中段の例を、それぞれ分割して掲載。	点字の特性を考慮して
	241	中1	修正	(例)として具体例を掲載。	点字の特性を考慮して
		中 6-9	修正	中段は以下のように修正し、上段9行目の後に挿入。 (例)「友達」 「友達」が(主語)→来る。 「友達」は(主語)→来る。 「友達」も(主語)→来る。	点字の特性を考慮して
		16	修正	形式名詞の(例)は以下のように修正。 (例)次の場合の、「こと」・「とき」など。 彼の「こと」を知っている。 一年生の「とき」に出会った。	点字の特性を考慮して
	下	修正	「文の中での名詞の働き」は以下のように修正。 「友達」と(連用修飾語) 友達と本を読む。	点字の特性を考慮して	

学年	ページ	行	修正事項	修正事項	備考	
2年 3巻				「友達」の(連体修飾語) 友達の本を借りる。 「友達」だ(述語) 彼と私は友達だ。 「友達」(独立語) 友達、それは人生の宝物だ。		
	242～ 254	下	修正	▼は「練習」とする。(以降P254まで同様)	点字の特性を考慮して	
	242	8	修正	程度の副詞の(例)の※の文頭に「次のように」の語句を補う。	点字の特性を考慮して	
	244	表	修正	活用表内の表記の仕方(以降P255まで同様) う→う(一) よう→よう(よ一) 。→ (…)	点字の特性を考慮して	
	245	中	修正	動詞の活用のローマ字部分はカナで表記。	点字の特性を考慮して	
	246	左表 下4	修正 修正	▼次の動詞の活用を考え、表に書き込もう。 → 練習 次の動詞の活用の種類と語幹、活用を書いてみよう。 走る 走れる 話す人の目を見て→話す人の方を見る	点字の特性を考慮して	
	247	左表 下 4-5 7-8	修正 修正	▼次の形容詞・形容動詞の活用を考え、表に書き込もう。 → 練習 次の形容詞・形容動詞の語幹、活用を書いてみよう。 美しい(形容詞) 自由だ(形容動詞) 形容詞全体を「 」で囲み、以下のように読み方も示す。 「暑く」と ございます →「暑う(あつー)」 ございます 「楽しく」と ございます →「楽しゅう(楽しゅー)」 ございます (楽しう→楽しゅう)	点字の特性を考慮して ※和語は音便変化の場合、 点字では「一」と表記することに十分留意させ、指導に当たることが必要である。	
	250	下	修正	助詞に線を引こう。→助詞を抜き出そう。 問題は分かち書きせずを書く。	点字の特性を考慮して	
	254	下	修正	例の説明を以下のように修正。 「ない」を「ぬ」に置き換えられる。→助動詞 このところ、雨が降ら「ない」。→「降らぬ」 「ない」を「ぬ」に置き換えられない。→補助形容詞 外はまだ暗く「ない」。→「暗くぬ」	点字の特性を考慮して	
	256	欄外	修正	※はそれぞれ、以下の箇所に掲載。 一つ目の注は、該当する欄にそれぞれ挿入。 二つ目の注は、「れる・られる」の欄に挿入。	点字の特性を考慮して	
	257～ 260		修正	漢字の練習【資料52】	点字使用生徒の実態に即して	
	2年 4巻	270	下19	修正	手紙部分の「 」を削除し、前後を1行あけて示す。	点字の特性を考慮して

学年	ページ	行	修正事項	修正事項	備考
2年 4巻	274	図	削除 修正	図1～3は削除。 (重箱構造)と(門作用)は点図を掲載する。	点字使用生徒の実態に即して
	281	図	修正	能舞台平面図は点図を掲載する。	点字使用生徒の実態に即して
	282～ 285		修正	(出身)は作者の出身地、(舞台)は作品の舞台となっていることを示す。なお、歴史的仮名遣いで書かれた作品は点字の古文表記にしたがって書き表した。	点字の特性を考慮して
	286	下6	削除	写真一二点の写真の異なる点や使った意図を考えよう。	点字使用生徒の実態に即して
	291	上2	修正	文頭に「普通の文字の場合、」の語句を補う。	点字使用生徒の実態に即して
	291		修正	二つの文例にはそれぞれ(改まった手紙の例)(通信文の例)と見出しを付けて掲載する。	点字使用生徒の実態に即して
	291	下	修正	(1)…横書きの書式では、後付けが先に入ることもある。 →…横書きの書式や点字で書く場合は、後付けが先に入り、「前付け」とすることもある。 (4)冒頭に置かれる。 →冒頭に置かれる(前付け)。	点字使用生徒の実態に即して
	291	下	修正	(6)の後に次の文を補う。 *実用的な通信文は、(4)(5)(1)(2)(3)(6)の順に書く。	点字使用生徒の実態に即して
	325～ 327		修正	「文学的な文章を読むために(折込)」及び「説明的な文章を読むために(折込み)」は、目次の分類に従い「資料」の末に掲載。	点字の特性を考慮して
326	下	修正	「ぐうたら」(ひらがな)「タカラモノ」(カタカナ)「不思議アタマ」(「不思議」は漢字、「アタマ」はカタカナ)	点字使用生徒の実態に即して	
2年 5巻	132～ 138		修正	漢語は現代仮名遣いで掲載し、漢語に添えられた読みは削除する。	点字の特性を考慮して
	140		修正	「源氏と平家の戦い」の地図は点図で表し、戦いの名称と年月は古い順に番号をつける。【資料53】	点字の特性を考慮して
	144	上8	修正	原文から抜き出したり、143ページの図を使ったりして→原文から抜き出して	点字の特性を考慮して
	145	上18	修正	300字(点字32マス17行)程度	点字の特性を考慮して
	146～ 152		削除	訓点符号付きの漢文は掲載しない。	点字の特性を考慮して ※点字では漢文を書き下し文で学ぶことを、指導の際に留意する。
	147	欄外	修正	一句が五文字のものを→一句が漢字五文字からなるものを 七文字のものを→漢字七文字からなるものを	
	148	13	削除	「然」は「燃」と同じ。	
		15	修正	「二句十字」に、次のように注をつけ、P147「絶句」の脚注を参照するように示す。 (脚注)この詩は五言絶句である。(点字教科書該当ページの脚注参照)。	
		10 15	修正 修正	「碧」は→「みどり(へき)」は 然=赤 → 燃える(赤)	
	152	10-11	修正	一句の字数が五字であるか七字であるか→一句の字数が漢字五字であるか七字であるか	
	154～ 156 157	12 3	修正 削除 修正	形や意味の→白文で書かれた形や意味の 写真のキャプションは削除する。 「ルネサンス」の語にP154 L2～4のキャプションを脚注としてつける。	点字使用生徒の実態に即して ※原典教科書を生かした修正に留めているために、指導においては単元の目標をふまえて

学年	ページ	行	修正事項	修正事項	備考
2年 5巻	157			(脚注) 14世紀頃にイタリアから始まった、古典文化を理想として文化の革新を目指した運動をルネサンスという。人間や自然をありのままに表現した芸術作品が数多く生み出された。	点字使用生徒の実態に即した教材を工夫することが必要である。
	158	18～19	削除	たくさんの手が描かれているが、試しに、その一つ一つのポーズを君もまねてみよう。→たくさんの手が描かれている。手のポーズは・・・	
	162	12-13	削除	君もいつか・・・自分の目で見てほしい。	
	164		修正	漢字を確認しよう【資料54】	点字の特性を考慮して
	169	下	修正	5. パネリストによるまとめの発言・・・ 6. 司会者によるまとめ・・・	点字の特性を考慮して
	173	上5	修正	(環境問題の課題例)の前に、以下を挿入。 (Aさんが見聞きしたこと)ーパソコンなど電子機器の廃棄物(ガーナ)	点字使用生徒の実態に即して
	174	上13	修正	600字から800字(点字32マス33～44行)	点字の特性を考慮して
	176～177			旧仮名遣いで表記し、読み方を偶数ページ脚注に掲載	点字の特性を考慮して
	178	上5	修正	吹き出し部分を、うさぎA・B・C・D、かめとし、2行目と3行目の間に掲載。	点字使用生徒の実態に即して
	181	上	修正	地図を表で示し、P181 下段9行目の後に掲載。 【資料55】	点字使用生徒の実態に即して
2年 6巻	198	脚注	修正	同音異義語(信実・真実)に次のように注を付す。 信実(「しん」は「しんらい」の「しん」) 真実(「しん」は「まこと」)	点字の特性を考慮して
	207	上14	修正	父兄→義兄	
	210		修正	漢字を確認しよう【資料56】	点字の特性を考慮して
	211	上	修正	Aチーム(負けたほう)「来年□ がんばろう！」 Bチーム(買ったほう)「来年□ がんばろう！」	点字使用生徒の実態に即して
	214	11	修正	400字(点字32マス22行)	点字の特性を考慮して
	216		修正	方言分布図を表で示す。【資料57】	点字使用生徒の実態に即して
	217	7	修正	方言による「はた(き)」の発音の違い 点図で表す。	点字使用生徒の実態に即して
	225		修正	漢字を確認しよう【資料58】	点字の特性を考慮して
	226	2～3	削除	文章を読むとき、また、・・・注意しよう。	点字の特性を考慮して
		6～9	修正	下記のように修正し、1行目の前に掲載。 学校の前をバスが通る。 バイオリン教室に通う。 「とおる」と「かよる」には同じ漢字が用いられている。	点字の特性を考慮して
	227	下段	修正	練習問題【資料59】	点字の特性を考慮して
	231	16	修正	原稿用紙3、4枚(点字32マス17行書きで4ページから6ページ)	点字の特性を考慮して
	231	下段	修正	・一枚ずつ手でめくりながら示す。 ・最初は一部を隠すなど、興味を引く見せ方をする。	点字使用生徒の実態に即して
3年 1巻	14	上	修正	「私の評価」メモ【資料60】	点字の特性を考慮して
	14	下	修正	アンソロジー【資料61】	点字の特性を考慮して

学年	ページ	行	修正事項	修正事項	備考
3年 1巻	30		修正	漢字を確認しよう 【資料62】	点字の特性を考慮して
	33	欄外	追加	「朋」の注に、以下の文を追加。 ここでは、「朋友」の「朋」を用いている。	点字の特性を考慮して
	33～ 34		削除	訓点符号付きの漢文は掲載しない。	点字の特性を考慮して ※点字では漢文を書き下し文 で学ぶことを、指導の際に留 意する。
	35	中	修正	評価メモ例 【資料63】	点字の特性を考慮して
	38	上 16	削除	反応や表情を見ながら→反応を見ながら	点字使用生徒の実態に即して
	38	下	修正	構成メモの例 【資料64】	点字の特性を考慮して
	39	上	削除	例文中の波線、傍線、二重傍線、波線を削除。	点字の特性を考慮して
	39	下	修正	スピーチの例 【資料65】	点字の特性を考慮して
	40	上11	修正	37ページ下段の例→該当ページ（場面・相手と目的の 設定例）	点字の特性を考慮して
	42	下	修正	練習問題 【資料66】	点字の特性を考慮して
	44～ 50		削除	図1、3、4は、該当箇所にキャプションのみ入れて 図は「省略」して掲載。	点字使用生徒の実態に即して ※筆者の論理的な展開の仕方 について、文脈中での特に図 の効果的な提示方法を手掛か りに学ぶための教材とした。 3年生の教材であることを考 慮した修正であるが、目的の 確認と生徒の実態を踏まえた 慎重な指導が望ましい。
	45	中	修正	図2を点図化する。	点字使用生徒の実態に即して
	50	2 12 13	削除 修正 修正	文章について以下の部分に修正等を行った。 「日頃眺めている」を削除。 月を見るときには→月について話すときには 見えるかもしれない→感じられるかもしれない	点字使用生徒の実態に即して
	52		修正	漢字を確認しよう 【資料67】	点字の特性を考慮して
	53	上	修正	体育祭での出来事を、さまざまな形態で表現した例 【資料68】	点字の特性を考慮して
	55	上 3	削除	「付箋やカード」を削除。	点字使用生徒の実態に即して
	55	下	修正	取材メモの分類例 【資料69】	点字の特性を考慮して
56	上14	修正	文字の大きさや色→レイアウト	点字の特性を考慮して	

学年	ページ	行	修正事項	修正事項	備考
3年 1巻	56	右下	削除	紙面構成の例の図を削除。	点字使用生徒の実態に即して
	57	右下	削除	「文字の大きさや太さ、配列、色、書体の効果を考えて書く。」の一文を削除。	点字の特性を考慮して
	63	上3 5～ 6 下12	修正 削除 追加 修正	次の文章→普通の文字の文章 「ことに気づくだろう」を削除。 「いったい何種類の」の前に「次の文章では、」を追加。 「ぼく」（僕）のように、→「僕」という漢字が	点字の特性を考慮して
3年 2巻	68	14	修正	目を→心に	点字使用生徒の実態に即して
	71		修正	(すずめを見て) 昔の人「うつくし」 現代の人「かわいい」 (くつを見て) 年配の人「歩きやすそうな・・・」 若い人「かっこいい・・・」	点字の特性を考慮して
		16	修正	72ページのグラフ→該当ページの表	
	72	上	修正	「ざっくりとした説明」という表現について 【資料70】	点字の特性を考慮して
	72	下15	修正	200字程度→200字（32マス11行）程度	点字の特性を考慮して
	78	上	削除 修正	図 張り切って出かけた健太さんだが、結果は左の絵のとおりであった。→張り切って出かけた健太さんは、スイカを三つと桃を三つ買ってきた。 母親 「スイカは一つでよかったのに。」 健太 「えっ、三つって言ったよ。」	点字使用生徒の実態に即して
	91	上	削除	「⑥加茂川」の注を削除。	点字の特性を考慮して
	95	下3	追加	読書ノートに→読書ノートなどに	点字使用生徒の実態に即して
	95	下	追加	新聞の書評欄を→新聞の書評欄などを	点字使用生徒の実態に即して
	96		修正	読み終えた本には、題名の上にチェックマークを付けよう。→読み終えた本の題名を書いておこう	点字使用生徒の実態に即して
	107	18	追加	脚注に追加。 ルントウ - 「ルン」は「うるうづき」の「うるう」、 「トウ」は五行の「土」の意味。	点字の特性を考慮して
	122		修正	漢字を確認しよう 【資料71】	点字の特性を考慮して
	126		修正 修正	下のような表に→次のように 400字程度→400字（32マス22行）程度	点字の特性を考慮して
126	中	修正	論説を比較し、まとめた表 【資料72】	点字の特性を考慮して	

学年	ページ	行	修正事項	修正事項	備考	
3年 4巻	232～ 235		修正	「話すこと・聞くこと」等の領域のマークを削除し、1～4の番号を付ける。ゴシック体で書かれた中段を、箇条書きのまとまりの前にそれぞれ挟み込み、領域順に書く。 3年掲載ページは書かず、1～3年の学年のみを示す。	点字使用生徒の実態に即して	
	273		追加	抽象的な言葉の熟語のうち、次の同音異義語は短文か熟語にして掲載した。 「感性」を磨く 「信仰」心 「市場」経済 「自助」自立の精神 自然「現象」	点字の特性を考慮して	
	274	上9	修正	頻繁に目にする→頻繁に用いる	点字使用生徒の実態に即して	
	274～ 275			熟語のうち、同音異義語のあるものは意味を補足した。 【資料75】	点字の特性を考慮して	
	275	上11	修正	それぞれ、資料編の「常用漢字表付表」で調べてみよう。	点字の特性を考慮して	
		上 最終	修正	漢字一字で書き表すと「凧」となる。→一字で書き表す漢字がある。	点字の特性を考慮して	
		下1	修正	部首の「かぜ」と「木」を組み合わせた……。	点字の特性を考慮して	
		下6	修正	国字の例は音と訓で表す。 「どう（はたらく）」「こむ」「はたけ」 「とうげ」「わく」	点字の特性を考慮して	
		下13	修正	太い→（中国）はなはだ さく→（中国）わらう	点字の特性を考慮して	
		下17	削除	※の1文	点字使用生徒の実態に即して	
	308～ 310			「文学的な文章を読むために（折込）」及び「説明的な文章を読むために（折込）」は、目次の分類に従い「資料」の末に掲載。」	点字の特性を考慮して	
	3年 5巻	148～ 149		修正	「おくの細道」俳句地図は点図にし、本文の後に挿入。俳句は解説とともに、深川から順に行程を追って番号を付ける。	点字の特性を考慮して
		150		補足	脚注の「三代の栄耀」の後に「栄耀」の補足説明を入れる。 「えよう」は「えいよう」の訳	点字の特性を考慮して
		158		修正	「ゴリラの生息域」の図を点図化する。ただし、原典教科書の図の中の国境線は描かない。	点字使用生徒の実態に即して
165～ 166			修正	漢字を確認しよう【資料76】	点字の特性を考慮して	
169			修正	3行目の「課題を見つけよう。」の後で改行し、次の段落との間に、下段の「課題の例」を挿入する。	点字の特性を考慮して	
173			追加 修正	「広告に書かれている文」の部分で、「ポスター広告の例」としてポスターの絵の解説を加える。 【資料77】	点字使用生徒の実態に即して	
173			修正	表を修正【資料79】	点字の特性を考慮して	
174			追加 修正	「広告に書かれている文」の部分で、「ポスター広告の例」としてポスターの写真の解説を加える。 【資料80】	点字使用生徒の実態に即して	
175		9	修正	右下の→次の	点字の特性を考慮して	
177		上9	修正	600～800字 → 600～800字（点字32マス33～44行）	点字の特性を考慮して	

学年	ページ	行	修正 事項	修 正 事 項	備 考
3年 6巻	180	上	削除 修正	「二人の言葉の中にある、『ない』という言葉に注目しよう」を削除し、文を次のように修正する。 次の1.～3.の「ない」は、文法上異なる働きをしている。その違いを考えてみよう。 1. 道が分から「ない」。 2. 地図も「ない」。 3. 頼り「ない」なあ。	点字の特性を考慮して
	207～ 209		修正	漢字のまとめ3【資料81】	点字の特性を考慮して

3 参考資料

【資料1】「点字の書き方」（1学年のみ掲載）

1 点字について

1. 点字の考案

目の不自由な人のための文字は、古くからいろいろと試みられているが、現在用いられている6点点字が考案されたのは、1825年のことである。フランスのルイ・ブライユによって考案された。当時、ブライユは、世界で最初の盲学校であるパリ盲学校の生徒であった。ブライユが16歳の時のことである。

ブライユが点字に初めて触れたのは、パリ盲学校の校長からシャルル・バルビエの12点点字を紹介された時のことである。ブライユは、自分自身で読み書きすることのできる新しい文字に触れ、抑えがたい感動を覚えたという。

彼は、このバルビエの12点点字にまず習熟し、その欠点を批判し、2年あまり後には、この12点点字を二つに分けた6点点字の構想をまとめるに至った。時に1823年、ブライユは14歳の少年であった。この後、2年の歳月をかけて、1825年に現在の6点点字を完成した。

フランス政府が、このブライユの点字を目の不自由な人の公式文字として認めたのは、1854年のことである。ブライユの点字が、我が国で初めて盲学校の生徒に紹介されたのは、1887年のことである。当時、東京盲啞学校の教師であった小西信八が、アルファベットを用いたローマ字式の点字を生徒に教えたのである。この生徒は1週間ほどで自由に読み書きができるようになったという。

点字の有用性に自信をもった小西信八は、早速東京盲啞学校の職員や生徒に、ブライユの点字を日本語に翻案することを呼びかけた。これに応じて翻案に努力したのが、同じ東京盲啞学校の教師であった石川倉次であり遠山邦太郎であった。また当時、東京盲啞学校の生徒であった伊藤文吉や室井孫四郎らは、先生方に劣らぬ1案をまとめ上げている。そうしたもののなかから、石川倉次のまとめ上げたものが、1890年（明治23年）に、日本の点字として選ばれ制定されたのである。

ブライユ少年がフランスで点字の考案に努力したことや、我が国において伊藤・室井などの生徒が点字の翻案に努力した事実は、深く心に留めておきたいことである。

2. ブライユの点字配列表

六つの点の組み合わせからなる点字は、点の組み合わせの数からすると63通りの組み合わせができる。次の一覧表は、その63通りの組み合わせに規則性を持たせて配列したもので、ブライユの点字配列表と呼ばれている。

ブライユは、この表を元にしてアルファベット・数字・アクセント・句読点・楽譜などを決めた。我が国の点字も、基本的にはこの配列表にならっており、石川倉次の翻案になる50音の配列の仕方も、原理的にはこの配列表の原則にならって作成されているのである。

ブライユの点字配列表

⠠	⠡	⠢	⠣	⠤	⠥	⠦	⠧	⠨	⠩
⠪	⠫	⠬	⠭	⠮	⠯	⠰	⠱	⠲	⠳
⠴	⠵	⠶	⠷	⠸	⠹	⠺	⠻	⠼	⠽
⠿	⠁	⠂	⠃	⠄	⠅	⠆	⠇	⠈	⠉
⠊	⠋	⠌	⠍	⠎	⠏	⠑	⠒	⠓	⠔
⠕	⠖	⠗	⠘	⠙	⠚	⠛	⠜	⠝	⠞

3. 点字仮名

(1) 清音・濁音・半濁音

日本の点字の考案者である石川倉次は、ブライユの点字配列表から、 ⠠ を含むものを除いて、「ア行」にあてた。さらに、 ⠠⠠⠠ の点の組み合わせを加えて、カ・サ・タ・ナ・ハ・マ・ラの各行を表した。つまり、清音について母音は ⠠⠠⠠ の点の組み合わせで、子音は ⠠⠠⠠ の点の組み合わせで表しているが、例外としてワ行は、ア行と同じものを最も下げて表し、ヤ行はワ行に ⠠ の点を加えて表している。

濁音は、清音に濁点を表す ⠠ の点を前置し、半濁音は、清音に半濁点を表す ⠠ の点を前置して、それぞれ二マスで表している。

(清音)

(濁音・半濁音)

⠠	⠠	⠠	⠠	⠠					
⠠									
⠠									
⠠									
⠠	⠠	⠠	⠠	⠠					
⠠									
					⠠	⠠	⠠	⠠	⠠
⠠	⠠	⠠	⠠	⠠					
⠠	⠠		⠠	⠠					
⠠	⠠	⠠	⠠	⠠					
⠠	⠠		⠠	⠠					

(2) 撥音・促音・長音

⠠	撥音 (はねる音)	⠠	促音 (つまる音)
⠠	長音 (のびる音)		

(3) 拗音・拗濁音・拗半濁音

拗音は、主となる子音とヤ行の音から成り立っていて、普通の文字では、拗音のある列のイ段の音に小書きでヤ行の音を組み合わせる。点字では、各列のア段ウ段オ段の音に拗音を表す ⠠ の点を前置して、それぞれ二マスで表している。

また拗濁音は、 ⠠ の点に濁音を表す ⠠ の点を加えた ⠠ を前置して示し、拗半濁音は、 ⠠ の点に半濁音を表す ⠠ の点を加えた ⠠ を前置してそれぞれ示す。

(拗音)

(拗濁音・拗半濁音)

⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠
⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠
⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠
⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠
⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠
⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠
⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠			
⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠			

(4) 特殊音

外来音などに用いられる特殊音は、三つのグループに分類され、それぞれ前置点を付けて表している。

開拗音系

合拗音系

その他

開拗音系					
⠠⠠⠠⠠					
⠠⠠⠠⠠					
⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠				
⠠⠠⠠⠠					
⠠⠠⠠⠠					
⠠⠠⠠⠠					
合拗音系					
	⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠		
⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠
⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠		
⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠

その他

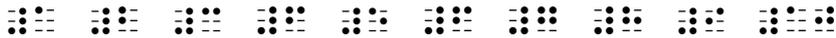


4. 数字とアルファベットなど

(1) 数字

数字は、ブライユの点字配列表の1行目に、数符を付けて書き表す。

⠠ (数符)



⠠⠠⠠⠠⠠ (⠠は小数点)

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ (⠠は位取り点)

⠠⠠⠠⠠⠠ (⠠はアポストロフィ)

(2) アルファベット

アルファベットは、ブライユの配列表の1行目から3行目の前半に、4行目の最後のものをWとして挿入したものである。これらを日本語の文の中で用いる場合には、外文字を前置して表し、語句や文の場合は外国語引用符で囲んで示す。

大文字一つだけを表す時には大文字を外文字の後に添えてから示し、二つ以上続く場合は二重大文字を前置して表す。

アクセント符は該当する母音などに前置し、ピリオドは項目記号の後に付けたり省略符として用いたりする。

⠠ 外文字

⠠⠠ 大文字

⠠⠠⠠ 二重大文字



⠠⠠⠠⠠⠠ (外国語引用符)

⠠ (アクセント符)

⠠ (ピリオド)

5. 表記符号の構成

(1) 句読符

表記符号のうち、句点・疑問符・感嘆符は前に続け、文の終わりであれば後ろは二マスあける。ただし、これらが囲み符号の閉じ符号の前に使われる場合は、マスをあけずに書く。また、読点と中点は前に続け、後ろを一マスあける。

⠠ (句点) ⠡ (疑問符) ⠢ (感嘆符)
⠣ (読点) ⠤ (中点)

(2) 囲みの符号

囲みの符号は内側は続け、外側は囲まれた部分とその前後との分かち書きの原則に従う。

⠠⠠⠠ 第1カギ
⠠⠠⠠⠠⠠ 第2カギ
⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ふたえカギ
⠠⠠⠠⠠ 第1カッコ
⠠⠠⠠⠠⠠⠠ 第2カッコ
⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ 二重カッコ
⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ 点訳者挿入符
⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ 第1指示符
⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ 第2指示符
⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ 第3指示符
⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ 第1段落挿入符
⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ 第2段落挿入符

(3) 関係符号

つなぎ符類と波線は、前後を続けて表す。

矢印類・棒線（ダッシュ）・点線は、前後を一マスあけて書き表す。また、矢印類は長さの増減が可能である。棒線と点線は、増やすことは可能だが減らすことはできない。

空欄符号や文中注記符の前後は、分かち書きの規則に従う。空欄符号は、長さを増減することができる。

星印類のあとは、一マスあけて書く。

⠠ 第1つなぎ符
⠠⠠ 第2つなぎ符
⠠⠠⠠ 波線
⠠⠠⠠⠠ 棒線
⠠⠠⠠⠠⠠ 点線
⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ 空欄符号
⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ 右向き矢印
⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ 左向き矢印
⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ 両向き矢印
⠠⠠⠠⠠ 文中注記符
⠠⠠⠠ 第1星印
⠠⠠⠠⠠ 第2星印
⠠⠠⠠⠠⠠ 第3星印

(4) 伏せ字とマーク類の符号

伏せ字やマーク類を点字で用いる場合は、それらの符号の用法に従って、適切に用いる必要がある。特に、伏せ字は○△□×の形そのものを示しているわけではないので、伏せ字ではない部分と同じ形だからといって用いることはできない。例えば、普通の文字では、問題の正誤等に○や×の記号をよく用いるが、それらに使用してはならない。

また、マーク類も同様で、適切な場所に説明とともにそれらの符号を使うなど十分な配慮が必要である。

⠠⠠⠠ 伏せ字の○

- ⠠⠠⠠ 伏せ字の△
- ⠠⠠⠠ 伏せ字の□
- ⠠⠠⠠ 伏せ字の×・数字の伏せ字
- ⠠⠠⠠ その他の伏せ字
- ⠠⠠⠠ パーセント
- ⠠⠠⠠ アンドマーク
- ⠠⠠⠠ ナンバーマーク（井桁）
- ⠠⠠⠠ アステリスク

(5) 文章構成関連符号

小見出し符類は前に続け、後ろは一マスあける。
詩行符類は前に続け、後ろは二マスあけて書く。

- ⠠⠠⠠⠠ 第1小見出し符
- ⠠⠠⠠⠠ 第2小見出し符
- ⠠⠠⠠⠠ 詩行符
- ⠠⠠⠠⠠ 二重詩行符

2 語の書き表し方

1. 現代語の書き方

現代語の書き方は、原則として「現代仮名遣い」に基づいているが、次の2点で現代仮名遣いとは異なる書き方をする。

(1) 助詞の「は」「へ」は、点字では「わ」「え」を用いる。

せんせい わ やさしい。
がっこう え いく。

(2) ウ列・オ列の長音のうち、「現代仮名遣い」で「う」と書き表す長音は、長音符を用いて書き表す。

くーき すーじ こーえん おとーさん

※ ただし、「楽しいことを思う」「道草を食う」「無理を言う」などの「思う」「食う」「言う」の「う」は、長音ではなく、動詞の活用語尾であるので「う」を用いて書く。

※ なお、オ列の長音のうち、次に挙げる語、及びその派生語は、普通文字の仮名遣いと同様に「お」を用いて書く。

おおかみ おおせ おおばこ おおやけ こおり こおろぎ ほお ほおずき ほのお とお
いきどおる おおう こおる しおおせる とおる とどこおる もよおす よそおい
いとおしい おおい おおきい とおい
おおむね おおよそ

また、「ぎーぎー」「きーきー」「ごーごー」「びゅーびゅー」などの擬声語の長音は、点字では長音符を用いて書き表す。

その他、「現代仮名遣い」では、「いれぢえ」「みかづき」のように「ち」「つ」で始まる言葉が連濁によって濁音化した場合、および「ちぢむ」「つづく」のように「ち」「つ」が重なって2番目の音が濁音になった場合には、「ぢ」「づ」を用いている。点字で書き表す時には、特に正しい音で書き表せるように、十分注意する必要がある。

2. 外来語や外国の人名・地名の書き方

外来語や外国の人名・地名の書き方は、できるだけもとの音に近く、しかも平易な書き方になるようにする。また、外来語や外国の人名・地名の長音は、長音符を用いて書き表す。

コンピュータ パーティー ケーキ シェークスピア ウィーン ディズニー スウェーデン

3. 数字や数字を含む語の書き表し方

ひとまとまりの数は、数符を前置して、4桁くらいまでは位取り記数法で続けて書き表すが、「千」と仮名で書いてもよい。「まん」「おく」「ちょう」などは、仮名で区切りながら書き表す。

2016 2千円
123、456、789
1億2345万6789

小数は小数点を用いて2.5のように書き、分数は一般書では読み上げる順に書き表す。
おおよその数で数字が重なるときは、それぞれに数符を付けてマスあけをせずに書き、読点や中点は省略する。

1.25 1と3分の2
2、3日 34、5さい
4百5、60人

「2・26事件」のように月と日の省略を表す場合も、数字を重ねて続けて書き、中点などはいない。

5・1 メーデー 5・4運動

数字の後に続く単位などはマスあけをせずに続けて書くが、その最初の文字がア行またはラ行の時には、数字との間に第1つなぎ符を挟んで書く。

2回 3センチメートル 15才
10円 5リットル

数字を含む言葉の書き方は、数字で書き表す場合と、仮名で書き表す場合の二通りに分けられる。一般的には、数量や順序の意味がある場合には数字を用いて書き、それらの意味が薄くなった慣用語では仮名を用いて書くことが多い。従って、同じ文字の語句でも、数量や順序の意味の有無によって数字と仮名に書き分けることになる。

お金が (1円) 関東 (1円)
彼 (一流)の経営で、 (1流)会社に発展させた。

数量や順序を表す語でも、和語の場合には仮名で書く。

一つ(ひとつ) 三日(みっか) 七草(ななくさ)

人名や地名などの固有名詞は、数字を用いずに仮名で書き表す。

一郎 九州 三宮

ただし、地番など、数量や順序の意味を明らかにする必要がある場合には、固有名詞であっても数字を用いて書き表す。

1丁目3番地 町立第一中学校

4. アルファベットと外国語の書き表し方

文字として用いるアルファベットは、外文字を前置して書き表す。略称などで2字以上の場合も、最初の外文字に続けて書く。その時、それらのアルファベットが大文字である場合は、外文字の後に大文字を付け、2字以上大文字が続く場合は、二重大文字を付けて書き表す。

A DVD NHK

1語中のアルファベットと数字との間は、マスあけせずに一続きに書く。

A4サイズ ビタミンB6

ひと続きに書く1語中の仮名と、アルファベット・数字の間は、続けて書き表す。また、アルファベットと仮名の間は、第1つなぎ符を挟んで続けて書き表すが、助詞や助動詞が続く場合には一マスあけて書き表す。

数kg チョロQ 40℃
T字路 B型
CDを聴く PTAの総会
僕が見たのはUFOだった

外国の語句や文を日本語の文章中に引用する場合には、その前と後ろを外国語引用符で囲む。

点字のことを、 (braille) という。

外国語引用符と外文字とを混同して用いないように十分注意が必要である。例えば、 IT なら、情報技術の略称になるが、 it とすると、3人称単数の人称代名詞となる。

5. 古文の書き方

古文の書き方は、原則として、和語は歴史的仮名遣いで書き表し、漢語は現代語に準じて書き表す。しかし、目的や必要によっては、すべてを現代仮名遣いで書き表したり、すべてを歴史的仮名遣いで書き表したりするなど、きめ細かく書き分けてもよい。

ただし、文語文法は現代文の文法とは異なる部分があるので、注意が必要である。

(原則に従った書き方)

ハルハ アケボノ。 ヤウヤウ シロク ナリユク ヤマギハ、 スコシ アカリテ、
ムラサキダチタル クモノ ホソク タナビキタル。

(現代仮名遣いに直した書き方)

アヤシガリテ ヨリテ ミルニ ツツノ ナカ ヒカリタリ。 ソレヲ ミレバ
3ズンバカリナル ヒト、イト ウツクシューテ イタリ。

6. 漢文の書き方

漢文は、書き下し文に直して書き表す。漢語の構造を明らかにしたり、漢詩の語数などを明確にしたりという必要がある場合には、訓点符号等を用いて書き表すこともできるので以下に挙げるが、これは参考例であって、点字による学習者に訓点符号による漢文学習を勧めるものではない。

(通常の見方 — 書き下し文)

しゅんみん あかつきを おぼえず
しよしよ ていちょうを きく
やらい ふううの こゑ
はな おつる こと しる たしょう

(訓点符号を用いた書き方)

しゅん みん ず ㄨㄣˋ ㄇㄧㄣˋ おぼ ㄛ え ㄟ あかつき $\text{ㄎ$ を
しよ しよ き ㄎ く ㄎ てい ちょう $\text{ㄨ$ を ㄨ
や らい ふう う ㄨ の こゑ
はな お ㄛ つること し $\text{ㄕ$ る た しょう

3 分かち書きの仕方

1. 点字の分かち書き

普通の文字で書かれた文章には、仮名文字で書かれた文章と漢字仮名交じりの文章がある。幼児用の本などは前者であり、一般の小説や評論文などの文章は後者である。

仮名だけで書かれている文章は、文を読みやすくするために語のひとまとまりごとに区切って間をあけて書かれている。こうした書き方を「分かち書き」という。これに対して漢字仮名交じりの文章では、漢字によって語の区切りが比較的分かりやすくなっているために分かち書きをしないのが普通である。

点字は、仮名と同様に音を表す文字であるために、分かち書きをして、読みやすく、意味も分かりやすくする必要があるので、そこで点字で文章を書く場合には、分かち書きをする。

点字の分かち書きの仕方は、一般に「文節分かち書き」と呼ばれているもので、文節の句切れ目ごとに区切って、間（マス）をあけていく方法である。この時、文節ごとに間をあけた部分のことを「マスあけ」と呼んでいる。

点字の分かち書きは、文節分かち書きであるので、原則的には、自立語はその前をあけて書き、付属語は自立語に続けて書く。しかし、マスあけの中には、文節の感覚が捉えにくいなどの理由で以下のような誤りやすいものがあるので、注意が必要である。

(1) 補助動詞・補助形容詞

はなが さいて いる。→「サイテイル」は誤り。

話を 聞いて みよう。→「キイテミヨウ」は誤り。
本を 読んで もらう。→「ヨンデモラウ」は誤り。
我が輩は 猫で ある。→「ネコデアル」は誤り。
もう 小学生では ない。→「ショーガクセイデワナイ」は誤り。

(2) 形式名詞

よむ ときに
かく ことを
ぼくの おもう ところでは
こんな ふう
ドアを あけた まま

(3) 意味の違いによって書き分ける必要があるもの

このあいだ (先日) 彼にあったよ。
この 間に 挟んで おいたよ。
どうして (なぜ) 答えないの?
どう したら 答えるの?
風が 強まって きた。 そのうえ あめも ふりだした。
提出物は その うえに おいて ください。

2. 自立語内部の切れ続き

自立語はひと続きに書くのが原則であるが、長い複合語などの場合は、自立語内部も区切ってある方が読みやすくなる。そこで、和語・漢語・外来語を通して、自立できる意味のまとまりは区切って書き表す。

(1) ひと続きに表す自立語の例

ア. 区切ると意味の理解を妨げる短い複合語・略語

朝日 水たまり 綱引き 鼻風邪
早割 大卒 英検

イ. 接頭語や接尾語、副次的な造語要素を含む語

真夜中 裏番組 子どもたち 効果的 ハイスクール

ウ. 助詞などを含んでも、1語としてまとまっている複合語

髪の毛 床の間 手のひら 山の手

エ. 区切ると理解を妨げる動植物名や理化学用語

水芭蕉 柊南天 ムカシトンボ ポリエチレン

オ. 複合動詞や複合形容詞 (動詞の連用形や形容詞の語幹に接続する動詞や形容詞)

笑いこぼれる 歩き回る 近寄る 重苦しい

カ. サ変の動詞のうち、以下のような語

a. 促音化・撥音化などの音韻変化をしたり、連濁を起こしたもの

達する 接する 発する
重んずる 軽んずる 先んずる
応ずる 命ずる 信ずる

b. 自立性の弱い1字漢語について一体化したもの

関する 比する 有する 与する

c. サ変以外の活用を持つもの

愛する 死する 属する 感ずる 演ずる

キ. 連濁を起こしたもの

株式会社 目覚まし時計 湯飲み茶碗 鏡開き

(2) 区切って書く自立語の例

ア. 3拍以上の自立可能な意味の成分が二つ以上ある複合名詞

内閣□総理□大臣 国語□辞典 入学□試験 自由□研究 ガイド□ブック 曇り□ガラス

イ. 2拍以下でも独立性が強く語の意味の理解を助ける複合名詞

歯科□医師 交通□事故 土地□改良 県□体育館 彼□自身

ウ. 接頭語や造語要素の中で、後ろの成分に対して連体詞的な関係を持ち意味の理解を助ける場合や、語尾の造語要素などが前の成分を受けているような場合

満□3歳 丸□1日 非□人道的 超□現実的

国語や□数学□等々

エ. 名詞や副詞に続くサ変の複合動詞

勉強□する 具体化□する いらいら□する しっかり□する

一致□団結□する 自画□自賛□する 意味□する 損する

オ. 年月日や名数およびその後続く語で、自立性が弱くても意味を明確にする必要がある場合

2016年□4月□4日

午前□1時□23分□56秒

12月□31日□18時□19分□発

1メートル□60センチメートル□強

15キログラム□減

カ. 二つ以上の自立可能な意味の成分からなる繰り返し言葉

むかし□むかし 遠い□遠い ぱちり□ぱちり ぽつり□ぽつり

3. 固有名詞内部の切れ続き

固有名詞内部の切れ続きは、原則として自立語内部の切れ続きと同じであるが、特に、次のような点に注意する必要がある。

(1) 人名の名字と名前の間は区切って書き表すが、外国の人名の内、2拍以下の名字や名前は他と続けるか、つなぎ符類をはさんで続けて書いても良い。

夏目□漱石 王□貞治 李□太白

レオナルド□ダ□ビンチ (レオナルド□ダビンチ、レオナルド□ダ_ニビンチ)

(2) 人名の後に敬称・尊称・官位などが続く場合、それが独立した意味のまとまりを持っている時は区切って書き表す。ただし、愛称・短縮形・一族を表す氏名(うじな)などは続けて書き表す。

小林□さん 田中□様 鈴木□殿 佐藤□君 石川□倉次□氏

お月さま 魚屋さん 真奈ちゃん むっちゃん 藤原氏

(3) 地名・国名・組織または団体名・会社名などは、3拍以上の意味のまとまりごとに区切る。ただし、2拍以下でも独立性が強い場合は、区切って書き表す。

大和□郡山市 土佐□清水市

アメリカ□合衆国 中華□人民□共和国

襟裳□岬 三浦□半島 十国□峠 華厳の□滝

社会□福祉□協議会 大阪□市役所 全国□盲学校長会 東京□ドーム

4 表記符号の使い方

表記符号とは、語句や文の関係を明らかにしたり、語句の引用、強調、説明あるいは文の省略などを明らかにして、文章を読み取りやすくする符号のことである。この符号を用いる場合は、点字の触読性に配慮した上で、普通の文字との対応を図る必要がある。

1. 句読符の用法

(1) 文の終わりには句点を続けて書き、次の文との間を二マスあける。句点の後にかぎ類や括弧類の閉じ符号がくる場合には、句点と閉じ符号との間は続ける。

雨が降った。風も吹いた。

後ろから「おーい。」と呼ばれて、(だれだろうか。)と思った。

(2) 会話文や脚本・小説などで、表現を豊かにするために用いられる疑問符や感嘆符は、句点と同様、文の終わり

3. 関係符号の用法

(1) つなぎ符

本来ひと続きに書くべき言葉の中に、数字やアルファベットが含まれていて、しかも誤読される恐れのある場合には、数字やアルファベットの後に、第1つなぎ符を入れて書き表す。また、漢字の訓読みなどで、漢字と送り仮名部分とを区別したいときには、第2つなぎ符を入れて書き表す。

1 0 0 ㉑ 円玉 ㉑ ㉑ ㉑ ㉑ 線
あか ㉑ ㉑ るい よ ㉑ ㉑ む

(2) 棒線（ダッシュ）

次のような場合に用い、符号の前と後ろを一マスずつあける。ただし、棒線の後に句読点や区切り符号が続く場合は、マスあけはしない。

ア. 対等な関係にある文や語句の対照

のれんに腕押し ㉑ ㉑ 糠に釘

イ. 前の文や語句の補足説明

明日 ㉑ ㉑ こどもの日 ㉑ ㉑ 私たちは遊園地に出かける。

ウ. 挿入句

いよいよ明日はこの子牛 ㉑ ㉑ 今私のそばですやすやと眠っている ㉑ ㉑ と、お別れだ。

エ. 感情の余韻や時間的隔たり、または漠然とした省略

まあ！なんということを ㉑ ㉑ 。

(3) 点線

感情の余韻や時間的隔たり、または漠然とした省略などを表現しようとする場合に用いる。ただし、点線の後に句読点や区切り符号が続く場合は、マスあけはしない。また、語頭または語中の省略に点線を用いる場合には、点線の後ろはマスあけをしなくても良い。

そうはいっても □ ㉑ ㉑ ㉑ ㉑
㉑ ㉑ ㉑ 的考え

(4) 空欄符号

試験問題などにある、隠された語句や文または記号などを表す場合に用いる。空欄符号の前と後ろは、分かち書きの規則や他の表記符号の用法に従う。普通の文字で空欄の中や傍に記号等が添えてある場合には、それらを空欄の前に出し、空欄符号を続けて書き表す。

次の ㉑ ㉑ ㉑ ㉑ ㉑ に適当な語を入れよ。

「舞姫」の著者は、(ア) ㉑ ㉑ ㉑ ㉑ ㉑ 時代の(イ) ㉑ ㉑ ㉑ ㉑ ㉑ である。

(5) 文中注記符

欄外の注を必要とする語句につけて用いる。その注に番号が付く場合には、注記符の間に数字を挟んで書き表す。欄外の注は、該当ページの下部に線を引くなどして本文と区別して挿入する。

(6) 波線

場所・数量・時間などの範囲を表す場合に用い、範囲を表す語句の間に挟み込み、マスあけをしないで書き表す。

2 0 1 6 年 ㉑ ㉑ 2 0 2 0 年
東京 ㉑ ㉑ 大阪
1 0 時 ㉑ ㉑ 1 2 時

(7) 矢印類

文や語句を対照させたり、時間の流れや変化の方向を表す場合に用いる。符号の前と後ろは、一マスあけて書き表す。

かき □ ㉑ ㉑ ㉑ □ きく □ ㉑ ㉑ ㉑ □ くるま □ ㉑ ㉑ ㉑ □ まり
つるつる □ ㉑ ㉑ ㉑ □ ざらざら

(1) 2行にまたがって書いてはならないもの

- ア. 一続きに書き表すべき数字やアルファベット
- イ. 濁音や拗音のように二マスで構成されている文字
- ウ. ふたえカギ、指示符類などのように二マス以上で構成されている符号類

(2) 行頭に書いてはならないもの（これらの符号が、もし行末に書ききれない時には、その符号の直前の語句とともに次の行に移して書く。）

- ア. 句点・疑問符・感嘆符・読点・中点など
- イ. 囲み符号（カギ類・指示符類・カッコ類・点訳者挿入符・段落挿入符・外国語引用符・発音記号符など）の閉じ符号
- ウ. つなぎ符・波線・小見出し符・詩行符類など

(3) 行末に書いてはならないもの

- ア. 数符・外字符などの前置符号
- イ. 囲み符号（カギ類・指示符類・カッコ類・点訳者挿入符・段落挿入符・外国語引用符・発音記号符など）の開き符号—これらの符号は、行末に余裕があっても、その符号に続く語句がその行に書ききれないときには、開き符号から次の行に移して書く。

2. 詩・短歌・俳句など

自由詩は3マス目から書き始めるが、定型詩は普通5マス目から書き出してよい。

行や連によって、書き出し位置に変化をつける場合は、二マス又は4マスを単位として差を付けて書き表す。

詩の1行が点字で2行にわたるときには、2行目は書き始めの行と二マスを単位として差を付けて書き表す。

短歌は、書き下しの場合3マス目から書き始め、その行に書ききれない部分は次の行の一マス目から書く。上の句と下の句を分けて2行に書き分ける場合には、上の句は3マス目から、下の句は5マス目からというように、行の書き出しに差をつける。3行書きの短歌は、1行ごとに行を改めて書き表す。

俳句や川柳は、3マス目または5マス目から書き始める。

（定型詩の例）

□□□□ナノハナバタケニ□□イリヒ□□ウスレ、
□□□□ミワタス□□ヤマノハ□□カスミ□□フカシ。
□□□□ハルカゼ□□ソヨフク□□ソラヲ□□ミレバ、
□□□□ユウヅキ□□カカリテ□□ニオイ□□アワシ。
(タカノ□□タツユキ) □□

（自由詩の例）

□□□□オレワ□□カマキリ
(カマキリ□□リュージ) □□

□□オー□□ナツダゼ
□□オレワ□□ゲンキダゼ
□□アマリ□□チカヨルナ
□□オレノ□□ココロモ□□カマモ
□□ドキドキ□□スルホド
□□ヒカッテルゼ

□□オー□□アツイゼ
□□オレワ□□ガンバルゼ
□□モエル□□ヒラ□□アビテ
□□カマヲ□□フリカザス□□スガタ
□□ワクワク□□スルホド
□□キマッテルゼ

（詩行符を用いて書いた例）

□□アイタクテ≡□□アイタクテ≡□□アイタクテ≡□□アイタクテ≡≡
・・・□□キョーモ≡□□ワタゲヲ≡□□トバシマス≡≡

(短歌の例)

リョーカン□

□□カスミ□タツ□ナガキ□ハルヒニ□コドモラト□テマリ
ツキツツ□コノ□ヒ□クラシツ

キタハラ□ハクシュー□□

□□イシガケニ□コドモ□7ニシ□コシカケテ
□□□フグヲ□ツリオリ□ユーヤケ□コヤケ

イシカワ□タクボク□□

□□カニカクニ□シブタミムラハ□コヒシカリ
□□オモヒデノ□ヤマ
□□オモヒデノ□カハ

(俳句の例)

ヤマグチ□セイシ□

□□サジ□ナメテ□ワラベ□タノシモ□ナツゴホリ

タカハマ□キョシ□□

□□□ハクボタン□イフト□イヘドモ□コー□ホノカ

3. 脚本

人物名を3マス目から書き、その後ろに小見出し符類を付ける、または人物名の後ろを二マスあけて台詞を書く。台詞が2行以上にわたるときは、次の行は行頭から書く。台詞に第1カギをつける必要はない。また、人物名を行頭から書き、次の行からは3マス目から書く方法もある。人物名は、繰り返して何回も現れるので頭文字などによる略記法を用いるのが便利である。

情景の説明は、第1段落挿入符で囲んで書き表し、ト書きは、第1カッコで囲んで書き表す。

(例1) 第2小見出し符使用

□□□□□リヤオー□モノガタリ
□□□□ダイ1マク□リヤオーノ□キューデン
□□☺☺□アイズノ□ラップガ□スイソー□サレル。□□リヤオーヲ□セントリーニ
3ニンノ□ムスメ☺☺ゴナリル、□リーガン、□コーディーリア☺☺、□ソノタ、
ジュージン□ケントヲ□ハジメ□オオゼイノ□カシガ□トージョー□スル。□☺☺☺
□□リヤオー☺☺☺□ミナノ□モノモ□シッテ□イル□トオリ、□フランスオート
バーガンディコーガ□コーディーリアヲ□ヨメニ□ホシイト□イッテ□キテ
オラレル。□□ソノ□ゴヘンジヲ□スル□マエニ、□コンゴ□ダレガ□ワシニ
モットモ□コーヨーヲ□ツクシテ□クレルカ□ハナシテ□モラオー。□□ココロガケノ
ヨイ□モノニワ□ソノ□ブンニ□オージテ□リョーチヲ□サズケタイ。
□□ゴナリル☺☺☺□ワタシワ□コトバデワ□イエナイホド□オトーサマノ□コトヲ
オモッテ□イマス。
□□コーディーリア☺☺☺□☺☺ドクハク☺☺□□ワタシワ□ナント□イオー。
ココロカラ□オツカエ□シタイノダケド。

(例2) 二マスあけ

□□リヤ□□☺☺チズヲ□サシナガラ☺☺□□ヨク□イッタ。□□オマエニワ、□コノ
キョーカイセンノ□ナカノ□リョーチヲ□ヤロー。□□サア□リーガン、□オマエワ
ドーダ。
□□リーガン□□オヤニ□コーコー□スルノワ□コノ□タノシミ、□ソノ□タノシミ
イガイノ□モノワ□ミナ□ワタシノ□テキデ□ゴザイマス。
□□コーディ□□☺☺ドクハク☺☺□□コンドウ□ワタシノ□バンダワ。□□ワタシノ□キモチワ
コトバデワ□イエナイ。□□ソーダ、□ワタシワ□ダマッテ□イヨー。

た、一枚ずつ書き足していくものなので、ページ、書いた日付、単元名、内容などを最初に書く習慣を付けるようにすると整理しやすい。また、ページ行を使って、そのページに書かれている内容を簡単に記しておく、後でノートを利用する際に便利である。

一般に、ノート類は大項目・中項目・小項目とに分けて箇条書きにすることが多い。この場合、項目の大きさを区別するために、項目に数字をつけて大小の序列を表すことが多い。一般的には、大きい項目から順に、

何も符号をつけない数字 1

ピリオドをつけた数字 1.

第1カッコをつけた数字 (1)

ア. イ. ウ. (ア) (イ) (ウ) 等の記号

のように用いる。(数字の代わりにアルファベットなどを用いる場合も、これにならう。) 数字に符号をつけない場合は、数字の後を二マスあけて項目や見出しを書く。数字に句点やカッコなどの符号をつける場合は、一マスあけてよい。

書き出しの位置は、最も大きな項目を9マスあたりから書き始め、項目が小さくなるごとに二マスずつ前を出して書くのが普通であるが、ノート類では、逆に最も大きな項目を一マス目から書き、項目が小さくなるごとに二マスずつ下げて書く方法をとってもよい。いずれの場合でも、同じ大きさの項目は数字等につける符号を合わせるとともに、書き出しの位置も同じマス目に揃えることが大切である。

ノートの書き方としては、そのほか、カッコ類・矢印・棒線・点線・波線類などの符号や、数に関する略記法を活用して見やすく活用しやすい方法を工夫する。

なお、ノート類は常に分類し、整理して、ファイルなどにとじ込んでおくように心がけることが、最も大切である。

7. 答案

点字では、一般的には試験問題と答案用紙が別になっている。したがって、答案を書くにあたっては、次のようなことに注意しなければならない。

(1) 解答用紙の最初の用紙には名前を書き、用紙すべてにページを付ける。

(2) 答案に書く番号や記号は、問題文の番号や記号と同じものを用いる。問題文に「問い 1」と書いてあれば、答案にも「問い 1」と書いて、その答えを書く。問題文の番号に句点や第1カッコが付いていれば、答案の番号にもそれぞれ句点や第1カッコを付けて同じように書く。

(3) 問題番号と解答との間は、二マスあけて書く。

(4) 問題はどこから解いてもよいのであるが、前後を動かして解答する場合には、それが何番のどの問いの答えであるかが分かるように、番号をはっきりと書いて解答する。

(5) 答えは1問ごとに行替えをして書く。

(6) 記号で答えるような場合には、特に書き間違えないように注意する。もし、書き間違いをした場合には、その部分を $\cdot\cdot\cdot\cdot$ で消してしまうか、改行して訂正と書いた上で、改めて答えを書く。

(7) 答案を見直して、答えを書きかえる場合には、訂正と書いた後に、問題番号をはっきりと書いてから、改めたい答えを書く。

8. 目次

目次は、見出しの項目が少ない場合でも、1ページを使用する。

目次は、1行目の中程に目次と書き、次の1行をあけて見出し語を書く。見出し語は、1行に1項目ずつ行をつめて書くが、2行以上にまたがるときは、見出し語の行頭から二マス下げ、行末がページを表す数字の位置にかからないよう書く。項目に序列がある場合は、その序列にしたがって、書き始めの位置で違いを表す。

ページ数は、行末に記し、項目とページ数との間は、点線で埋める。この際に用いられるのは、 $\cdot\cdot\cdot$ や $\cdot\cdot$ の点であるが、点線の前後は、それぞれ一マスずつあける。

9. 略記法

ノート類や試験問題などには、次のような略記法が用いられる。

(1) ページ・行の略記

pと1を用いて、ページと行を示す。その際に、行を下から数えた方が早い場合には、下という言葉を行の数字の前に入れて示す。

p 3 □ 1 5 (3 ページ 5 行目)

p 4 □ シタ □ 1 2 (4 ページ 下から 2 行目)

(2) 下がり数字を用いる略記

⋮⋮⋮ (4 ページ 8 行目)

⋮⋮⋮ (11 月 3 日)

(3) ⋮の点を間にはさむ略記

⋮⋮⋮⋮⋮ (10 時 40 分)

(4) ⋮の点を間にはさむ略記

⋮⋮⋮⋮⋮⋮ (3 丁目 1 番 7 号)

(5) マスあけを省略してつめて書く略記

⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮ (電話番号)

【資料 3】 (1 年 P19 下 8-20)

1. アクセントによるちがい

(例) いま

「い」にアクセント→いま (現在)

「ま」にアクセント→いま (リビング)

2. イントネーションによるちがい

(例) 図書館に行く「の」

「の」を下げる→説明

「の」を上げる→質問

【資料 4】 (1 年 P20)

(ノートの例)

板書や発言、話し合いの内容、自分の考えや気がついたことなどを書く。

⋮⋮⋮ (水)

野原はうたう

(目標)

1. 好きな詩を選び、声に出して読む。

2. 友達の発表の工夫に気づく。

詩を選ぶ

漢字注意!

「詩」人・「詩」集 歌「詞」と同じ音の漢字。形が違う。

(言葉メモ)

あした「こそ」→明日はきっと

音読の工夫

1. 読む速さ—ゆっくり はやく

2. 声の大きさ—大きく 小さく

3. 間の取り方—長く 短くなど

(私の工夫) あしたこそ

まいあがります→ゆっくり。ふんわりした感じを出す。

とんでいこう→力強く。決意を表す。

(友達の発表を聞いて)

「おれはかまきり」

「おうなつだぜ」を速く大きく。→元気な夏のかまきり。(森) 一元気のよさがよく出ていた。

「あきのひ」

五行目の後に間を取って読む。一詩のイメージが広がる。

...

→どっしりしたけやき。(山田)

4. 気持ちや様子を想像する。→読み方の工夫に生かす。

(授業のまとめ)

今日は「野原はうたう」から……言ってくれた。

1. 教材名や目標などー教材名や、その日の学習内容、学習の目標などを書き、何を学ぶかをはっきりさせる。
2. 言葉・漢字などー気になる言葉や表現、……国語辞典などで調べるとよい。
3. 自分の考え・感想などー次のようなことも……思い出しやすい。
自分の考えや感想、先生の話、友達の発言
4. 授業のまとめー学習の終わりに……確認できる。
学んだこと、新しく知ったこと、感想や課題 など

【資料5】 (1年 P22)

国語辞典

きろく ____ さん

きろく (めい . . . スル) 1. 後々まで伝えたい事柄を書き記すこと。また、その書き記したもの。「出来事を . . . する」 2. 競技などの成績や結果。特に、その最高のもの。レコード。「世界 . . . 」 「 . . . を破る) 」

キログラム (フランス語 k i l o g r a m m e) メートル . . .

柱一点字辞典では頁行にある。

見出し語ー五十音に並んでいる。柱などを参考に探す。

文法事項

言葉の意味ー複数ある場合は、……考える。

用例などー言葉の使い方や、……参考にできる。

【資料6】 (1年 P22)

漢和辞典

「ろく」…16画(総画数)、部首「かねへん(8画)」、部首以外の部分の画数8画(音)ろく、(訓)ー →漢字は音と訓で表す。

漢字の成り立ちー 意符の「金(金属)」と音符の「ろく(緑色)」とを合わせた字。「こく(きざむ)」と音が似ているために、「きざむ」「しるす」の意味に使われるようになった。

漢字の意味ー(1)書き記す。写し取る。とどめ残す。(用例)ー「録」音、記「録」。

(2) 書き記したもの。写し取ったもの。(用例) 一言行「録」、語「録」、付「録」
その漢字を使った熟語ー「録音」CDやテープなどに音を記録すること。

【資料7】(1年 P34)

(新しく習った漢字)

1. 次の「 」で示した部分は同じ漢字である。

(1)

ア. 「汁」粉と煎茶をいただく。

イ. 墨「汁」を買いに行く。

(2)

ア. せみの「抜」け殻を集める。

イ. 斬新で奇「抜」な意見だ。

(3)

ア. 銀行で料金を「振」り込む。

イ. 感情の「振」幅が大きい。

2. 次の「 」で示した同じ音の漢字について、意味を調べよう。

(1)

ア. 和解「勸」告

イ. 「飲」喜の声。

(2)

ア. 「華」美な服装

イ. 茶「菓」の接待

(3)

ア. 抑「揚」のきいた声。

イ. 「陽」気な性格。

(4)

ア. 「招」待状

イ. 「紹」介状

(小学校で習った漢字)

1. 次の「 」で示した部分は、小学校で習った漢字である。

※以下、該当する漢字部分にのみ「 」を付けて示す。

2. 次の各文の後に「 」で示した部分は、同じ部首を持つ漢字である。

(1) たけかんむり

ア. 「簡」単に見つかる。

イ. 政「策」を調べる。

(2) てへん

ア. 南極を「探」検する。

イ. 力を発「揮」する。

【資料8】(1年 P37 下)

(マッピングの例)

「近所の〇〇公園」

(様子)

→大きな木が多い。→静か。→・・・

→見晴らしがいい。

(思い出)

→夕方の町の風景をよくながめた。→・・・

→小さい頃から良く遊んだ。→・・・

(場所)

→〇〇駅から歩いて約10分。

→家から歩いて5分。→・・・

(場所への思い)

→心が落ち着く場所。→・・・

(見どころ)

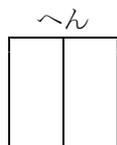
→季節の花がたくさんさく。

→町で一番大きなけやきがある。→・・・

【資料9】 (1年 P41下-42上)

(漢字の組み立て)

※漢字部位を表す図およびへん、つくり、かんむり、あし、たれ、にょう、かまえは点図にする。
各漢字ごとに、図は点図、部分の例は点線文字を添え、以下のように記載する。



よび名—ごんべん

意味—言葉

漢字例—

伝「説」(と__く)

順「調」(しら__べる)

議「論」

※漢字の例は以下のように修正する。漢字の例 () 内は訓読みを表す。

伝「説」(と__く) 順「調」(しら__べる) 議「論」

運「休」(やす__む) 「供」給源(そな__える) 「使」用者(つか__う)」

「判」断 便「利」(き__く) 時「刻」表(きざ__む)

援「助」(たす__ける) 「効」果音(き__く)」 「動」物(うご__く)

汽「笛」(ふえ) 万年「筆」(ふで) 季「節」風(ふし)

「今」日(いま) 「会」社員(あ__う) 「余」裕(あま__る)

「照」明係(て__る) 「熟」語(う__れる) 発「熱」(あつ__い)

「思」想家(おも__う) 「悲」痛(かな__しい) 「意」味合い

文化「庁」 喫茶「店」(みせ) 在「庫」品

「疲」労(つか__れる) 「病」人(や__む) 悪「癖」(くせ)

「追」突(お__う) 交「通」(とお__る) 「遠」距離(とお__い)

「起」床(お__きる) 優「越」感(こ__す) 「超」人的(こ__える)

「回」転数(まわ__る) 「固」形物(かた__める) 幼稚「園」(その)

「開」会式(ひら__く) 時「間」割(あいだ) 玄「関」先(せき)

(漢字の部首)

※各部首は点線文字で表し、漢字の例は以下のように修正する。

にんべん—「キュウ(やす__む)」・「キョウ(そな__える)」・「シ(つか__う)」

ひとやね—「コン(いま)」・「カイ(あ__う)」・「ヨ(あま__る)」

ひと—「ジン(ひと)」 これらは「ひと」という部首でまとめられる。

【資料10】（1年 P42下）

（練習問題）

1. 次の(1)～(8)の部首は、「 」で示した漢字に使われている。後に（ ）で示した説明に注意して確かめよう。
 - (1)いとへんー日本「縦」断（たて）
 - (2)おおがいー金「額」（ひたい）
 - (3)たけかんむりー劣「等」感（ひと__しい）
 - (4)にくづきー腎「臓」の検査。
 - (5)しかばねー高「層」ビル
 - (6)そうにようー「起」訴（お__きる）
 - (7)くにながまえー頑「固」（かた__まる）
 - (8)いしへんー「破」片（やぶ__る）
2. 次の(1)～(4)の「 」で示した部分の漢字について、部首と、後に（ ）で示した説明に注意して確かめよう。
 - (1)ころもー服「装」（よそお__う） 「襟」元（きん） 手「袋」（たい）
 - (2)みず さんずいー「氷」山（こおり） 「汚」染（よご__す） 安「泰」
 - (3)こころー「恭」順（うやうや__しい） 苦「惱」（なや__む）
「懸」命（か__ける）
 - (4)ひ にちー「暗」黒（くら__い） 「明星」（「みょう あか__るい」と「じょう ほし」） 上「昇」（のぼ__る）

【資料11】（1年 P54）漢字を確認しよう

（新しく習った漢字）

1. 次の「 」で示した部分は同じ漢字である。
※以下、該当する漢字部分にのみ「 」を付けて示す。
2. 次の「 」で示した同じ音の漢字について、意味を調べよう。
 - (1)
 - ア. 破「壊」する。
 - イ. 「懐」古趣味
 - (2)
 - ア. 天下無「敵」
 - イ. 指「摘」する。
 - (3)
 - ア. 細「胞」分裂
 - イ. 水「泡」に帰す。
 - (4)
 - ア. 光「沢」がある。
 - イ. 取捨選「択」

（小学校で習った漢字）

1. 次の「 」で示した漢字は小学校で習った漢字である。
※以下、該当する漢字部分にのみ「 」を付けて示す。
2. 次の各文について「 」で示した部分は、同じ部首を持つ漢字である。
 - (1) りっとう
 - ア. 重要な役「割」を果たす。
 - イ. 旅客機の出発する時「刻」だ。
 - (2) くさかんむり

- ア. この竹はまだ「若」い。
- イ. 「著」作活動に時間を費やす。

【資料12】（1年 P57下）

（将棋を話題にしたスピーチメモの例）

話題（タイトル）

私の好きな「将棋」

きっかけ

「私は小学校2年生のときに・・・」

1. 親のすすめ
2. 先生は公民館長の田中さん

気持ちの変化

「習い始めたころ」

1. ルールが複雑
2. 楽しくない

「中学年になるころには」

1. 勝てるようになる
2. 田中さんのはげまし

具体的な体験

「五年生のとき・・・」

1. 大会で優勝
2. 田中さんのなみだー「よくやった」

終わりの挨拶

「これで発表を終わります。」

【資料13】（1年 P61下）

情報がほしい

1. 図書館や書店に行く。（該当ページ「図書館の使い方」参照）
 - 専門書・事典・図鑑・年鑑などで調べる。
 - 新聞・雑誌で調べる。
 - 映像資料で調べる。
2. インターネットを利用する。（該当ページ参照）
 - 検索機能を使う。
 - 報道機関や専門機関のウェブサイトを開覧する。
3. 人にきく。（該当ページ「情報を集める」参照）
 - 身近な人にきく。
 - 公的な機関に問い合わせる。

【資料14】（1年 P64） 情報コラム③

普通の文字の新聞（縦書き）の紙面構成の特徴を知る

該当ページの図は、新聞の最初のページ（「一面」とよばれることが多い）である。これを使い、新聞の紙面構成の特徴を理解しよう。

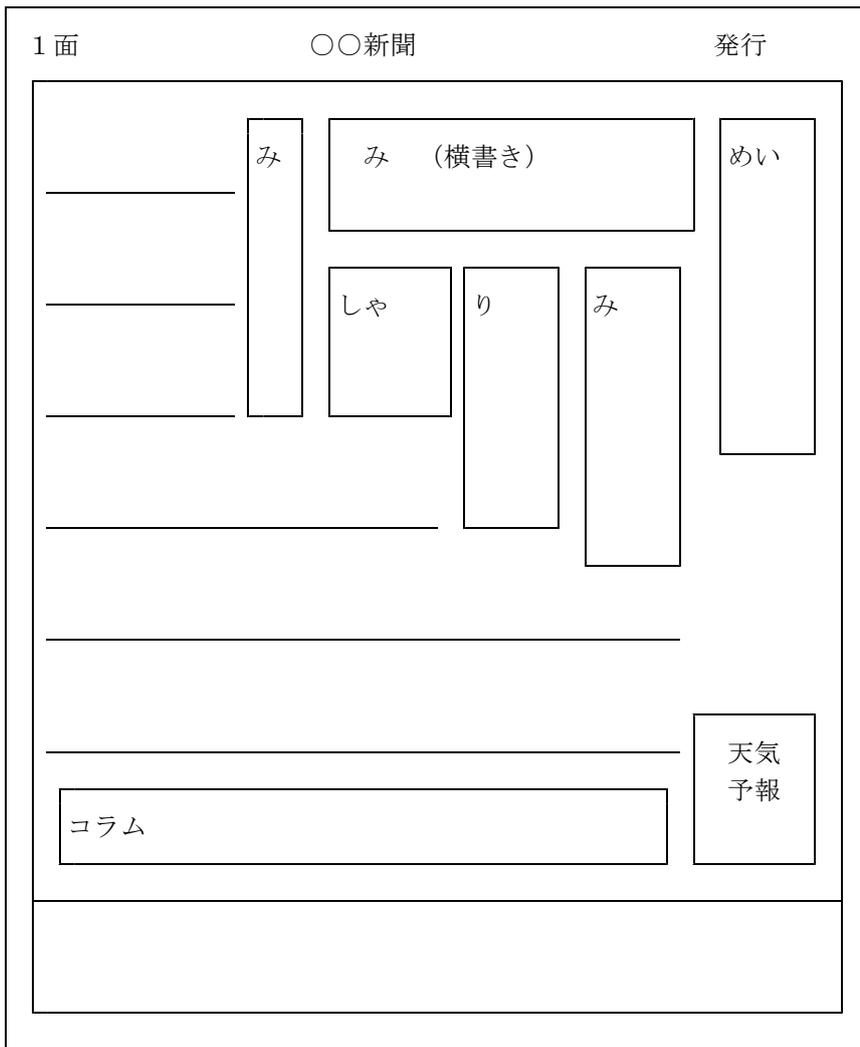
※面の説明は脚注とする。

(図の略語) はっこー発行年月
しゃー写真とキャプション

めいー新聞名

みー見出し

りーリード文



発行年月日ーその新聞が発行された日付と曜日。

見出しー記事の内容を短い言葉で表したもの。見出しが大きいもの（横書きにされたもの）ほど、重要な記事の場合が多い。

リード文ー本文の内容を要約したもの。重要な記事や長い記事に付けられる。

コラムー世の中の出来事や季節の話題などについて書かれた文章。書き手の意見や感想が盛り込まれる場合が多い。

写真とキャプションー写真とそれを説明する文章。「絵解き」ともいう。

その他ーその他に新聞には、新聞社の意見をまとめた社説や、読者の意見を掲載した投書欄などがある。

※吹き出しにはAさんをつける。

【資料15】（1年 P72上）

「味」

→さっぱり⇔こってり

→甘い⇔辛い→スパイシー

→甘い⇔塩辛い

→甘い⇔すっぱい

→甘い⇔苦い

「食感」

→さくさく→ざくざく
→さくさく⇄しっとり→みずみずしい
→さくさく⇄しっとり→とろり
→ふわふわ⇄もちもち
→ふわふわ→ふんわり

「見た目」

→あざやか→美しい
→小さい→かわいらしい
→シンプル⇄華やか

「かおり」

→さわやか→すがすがしい
→さわやか⇄濃厚→豊か
→さわやか⇄濃厚→深みのある
→香ばしい

【資料16】（1年 P88）

2 紹介に必要な情報を整理しよう（該当ページ「資料の工夫」参照）

次の項目を参考に、ほんの基本的な情報や、その本の内容や魅力が伝わるような情報を考えよう。

- (ア) 書名
- (イ) 著者名
- (ウ) 発行所名
- (エ) 発行年
- (オ) キャッチコピー
- (カ) 引用する文章
- (キ) あらすじ、内容の紹介
- (ク) 関連する本の情報など

☆キャッチコピー—ここでは、その本が読みたくなるように工夫された印象に残る言葉のこと。

3 本を紹介しよう

次の1.～3.の方法から一つを選んで、本を紹介し合おう。

1. ポップを使って紹介する

☆ポップ—ここでは、本の近くにそえられている広告のこと。ひと目で本の魅力が伝わるように工夫されている。

大いなる旅があなたを待っている（オ）

「嵐の大地 パタゴニア」（ア） 関野吉春（イ）

〇〇〇社（ウ）．□□□□年（エ）

「とちゅうで立ちよった村が……あいたいのです。」（カ）

500万年前の人類が……旅行記です。（キ）

1年2組 田口 実

2. 紹介箱を使って紹介する

お菓子の空き箱などを利用して、本を紹介する箱を作ろう。

- (1) ふたのついたお菓子の空き箱などを用意し、画用紙などをふたの寸法に切る。
- (2) 紹介したい本の内容を囲み符号や書き出し位置などを工夫し、点字用紙やタックシールなどを書く。
- (3) ふたの寸法に切った画用紙などに、清書したものをはる。
- (4) 画用紙などを、用意しておいた空き箱のふたにはる。(完成)
☆紹介箱のふたを開けて、読んだ人からの感想カードを入れることもできる。

(例)

- (ア) 書名－夏の庭 The Friends
- (イ) 著者名－湯本香樹実
- (ウ) 発行所名－〇〇〇社
- (エ) 発行年－□□□年
- (オ) キャッチコピー－忘れられない夏がここにある
- (カ) 引用する文章－「もしかすると、歳をとることは楽しいことなのかもしれない。歳をとればとるほど思い出は増えるのだから。」
- (キ) あらすじ、内容の紹介－人は死んだらどうなるんだろう。……見張り始めた。
- (ク) 関連する本の情報など－湯本香樹実さんの「ポプラの秋」もおすすめ

【資料17】 (1年 P116)

(新しく習った漢字)

1. 次の「 」で示した部分は新しく習った漢字である。
※以下、該当する漢字部分にのみ「 」を付けて示す。
2. 次の「 」で示した部分は、同じ読み方をするが違う漢字である。それぞれの漢字の意味を調べよう。

- (1) 「ほ」る
 - ア. 仁王像を「彫」る。
 - イ. 墓穴を「掘」る。

- (2) 「かわ」く
 - ア. 喉が「渴」く。
 - イ. シャツが「乾」く。

(小学校で習った漢字)

1. 次の「 」で示した部分は、小学校で習った漢字である。
※ 以下、該当の漢字部分は、「 」を付けて示す。

2. 次の各文について「 」で示した部分は、同じ部首を持つ漢字である。

- (1) おおざと
 - ア. 「郷」土の歴史を調べる。
 - イ. 「郵」便物を受け取る。
- (2) さんずい
 - ア. 資「源」を大切にす。
 - イ. 「潮」風が急「激」に強まる。

【資料18】（1年 P120） 表1 「落ち穂拾い」に出会う割合の変化

☆発生頻度は、月ごとの「落ち穂拾い」の観察回数時間で割って計算したもの。

月	発生頻度
1月	0.014
2月	0.000
3月	0.040
4月	0.321
5月	0.064
6月	0.000
7月	0.004
8月	0.000
9月	0.034
10月	0.017
11月	0.012
12月	0.000

【資料19】（1年 P122） 表3 イネ科の草の供給量の変化（2004年～2005年）

☆刈り取りは毎月複数の場所で行った。

月	供給量（平均値） g/m ²
1月	10.2
2月	7.2
3月	8.6
4月	5.4
5月	22.2
6月	50.7
7月	36.5
8月	50.2
9月	30.3
10月	41.2
11月	18.6
12月	12.1

【資料20】（1年 P124）

表5 金華山のシカの体重の変化（2000年～2001年）

☆「－」は測定が行われていない。

月	体重（平均値）
1月	－
2月	－
3月	29.9kg
4月	－
5月	43.1kg
6月	43.4kg
7月	－
8月	43.5kg
9月	42.8kg
10月	41.2kg
11月	40.1kg
12月	－

【資料21】（1年 P127）

（新しく習った漢字）

1. 次の「 」で示した部分は新しく習った漢字である。

※以下、該当する漢字部分にのみ「 」を付けて示す。

2. 次の「 」で示した部分は同じ読みをするが違う漢字である。意味を調べよう。

(1)

ア. 「飽」和状態

イ. 「砲」弾に倒れた。

(2)

ア. 「紡」績工場

イ. 体脂「肪」

(3)

ア. 優勝旗返「還」。

イ. 「環」境を守る。

(4)

ア. 賞を「獲」得した。

イ. 米の収「穫」。

（小学校で習った漢字）

1. 次の「 」で示した部分は、小学校で習った漢字である。

※ 以下漢字部分は、「 」を付けて示す。

2. 次の各文について「 」で示した部分は、同じ部首を持つ漢字である。

(1) きへん

ア. 果「樹」園のりんごが熟れる。

イ. 「机」の上を整理する。

(2) ごんべん

ア. 速やかに「議論」が進む。（「ぎ」と「ろん」）

イ. 雑「誌」の記事を読む。

【資料22】（1年 P131）

表2「国語に関する世論調査」の結果

「花に水をあげる」という言い方についてどう考えるか。

☆小数点以下第2位を四捨五入。

「言葉の乱れ」だ	12.8%
かまわない	53.3%
乱れではなく「言葉の変化」	19.2%
正しい言い方だ	12.9%
わからない	1.7%

【資料23】（1年 P134）練習問題

1. 次の「 」で示した漢字は同じ漢字である。音の違いに注意して、それぞれの熟語を読もう。

- (1)「ゆう」益な話、経験者の「う」無
- (2)「さ」糖菓子、土「しゃ」降り
- (3)重い「に」物、野菜の出「か」
- (4)「そう」相互作用、首「しょう」官邸
- (5)自「こ」満足、十年の知「き」
- (6)「がい」灯がつく時間、長崎「かい」道

2. 次の熟語の意味を調べよう。また、「 」の部分の漢字について、文末に示した訓読みを用いて短い文を作ろう。

- (1)「難」解な文章（むずか__しい）
- (2)号「泣」する（な__く）
- (3)確定「告」告（もう__す）
- (4)所「望」する（のぞ__む）
- (5)技「巧」をこらす（たく__み）
- (6)「迫」力満点（せま__る）
- (7)「遮」断機（さえぎ__る）
- (8)「企」画会議（くわだ__てる）

3. 次の熟語は同じ漢字を用いる。それぞれを使って短い文を作ろう。

- (1)「けんぶつ」 「みもの」
- (2)「たいせい」 「おおぜい」
- (3)「ふんべつ」 「ぶんべつ」

【資料24】（1年 P245・248）

P245

妹が歌う。

妹が（主語 だれが）→歌う（述語 どうする）

星が美しい。

星が（主語 何が）→美しい（述語 どんなだ）

妹がほがらかに歌う。

ほがらかに（修飾語 どのように）→歌う（どうする）

色あせた写真は祖母の宝物だ。

色あせた（修飾語 どのような）→写真は（何）

祖母の（修飾語 だれの）→宝物だ（何）

P248

今朝、野鳥が初めて巣箱に入った。

今朝（連用修飾語）・野鳥が（主語）・初めて（連用修飾語）・巣箱に（連用修飾語）

→に入った（述語）

今朝、僕は、野鳥が巣箱に入るのを見た。

今朝（連用修飾語）・僕は（主語）・野鳥が巣箱に入るのを（連用修飾部）→見た（述語）

野鳥が（主語）・巣箱に（連用修飾語）→入るのを（述語）

黒い鳥が赤い実をついばむのを見た。

黒い鳥が赤い実をついばむのを（連用修飾部）→見た（述語）

「黒い（連体修飾語）→鳥が」—主部

「赤い（連体修飾語）→実を」—連用修飾部

主部・連用修飾部→ついばむのを（述語）

【資料25】（1年 P235-238）漢字の練習

1 次の「 」で示した部分の漢字は6年生で学習した漢字である。

※以下該当の漢字部分は、「 」を付けて示す。

2 次の熟語は漢字のしりとりになっている。それぞれの漢字と熟語の意味を調べよう。

1. 頭「痛」→痛「切」→切「除」→除「去」→去「就」→就職
2. 批「評」→評「価」→価「値」→値「段」→段「階」→階層
3. 独「創」（的）→創「意」→意「欲」→欲「望」→望「郷」→郷土
4. 同「盟」（国）→盟「主」→主「体」→体「操」→操「作」→作詞（家）

3 次の「 」で示した熟語の意味を調べよう。

1. 「証明」問題
2. 実験「装置」
3. 「拡張」工事
4. 「閣議」決定
5. 「圧縮」気

4 次の四字熟語の意味を調べよう。

1. 大同小異
2. 四捨五入
3. 聖人君子
4. 大器晩成

5 次の1.～5.の言葉について「 」と（ ）で示した部分は、同じ音であるがそれぞれ違う漢字である。

1. 百「科」事（典） 金「貨」 晴（天）
2. 「警」察（署） 「敬」語 伊豆（諸）島
3. 「水」（蒸）気 「垂」直線 権利（条）約
4. 「向」（上）心 「鋼」鉄性 健康（状）態
5. 「展」（覧）会 「転」勤する 混（乱）
6. 「裁」判（官） 借金返「済」 立て（看）板

6 次の二つの熟語について「 」で示した部分は違う漢字である。それぞれの熟語の意味を調べよう。

1. ア. 友人関「係」 イ. 電気「系」統
2. ア. 参「考」意見 イ. 親「孝」行
3. ア. 列島「縦」断 イ. 「従」属関係
4. ア. 職場「訪」問 イ. 「方」向感覚
5. ア. 期「間」限定 イ. 「簡」単な問題
6. ア. 需要と「供」給 イ. 公「共」施設

7 次の語句について、「 」で示した部分は同じ漢字である。

1. 星「座」占い 「座」席 「座」談会 正「座」する
2. 検「討」事項 「討」議する 「討」論する 平家追「討」
3. 負「傷」者 「傷」害事件 「傷」心の日々 中「傷」記事
4. 単「純」作業 「純」白 「純」情な 清「純」な
5. 興「奮」する 「奮」起する 「奮」戦する 発「奮」する
6. 参「拝」する 「拝」見する 「拝」借する 礼「拝」する

【資料26】（1年 P286）いろいろな発想方法

発想を広げるために—マッピングで連想する

〇〇中の図書館

- 蔵書が多い→小説が増えた→何を読むかで迷う
- 蔵書が多い→傷んだ本もある
- 二年前に改装→とても広い
- 情報スペース→資料が豊富・パソコン
- 司書の△△先生→本に詳しい
- 図書委員会
- 利用者が多い→友達が増えた・活気がある

発想を深めるために—図式化して考える

よりよい図書館にするために

- 図書委員会の取り組み
- 本の紹介→おすすめコーナー・ブックリスト
- 図書委員会の取り組み
- 傷んだ本の整理→処分する・修理する

【資料27】（1年 P292）

（書き方の形式）

1. 題名は、最初の1行目に、5マス目または7マス目から書く。
2. 氏名は、題名の次の行に右寄せで書き、行末まで二マスくらいあくようにする。
3. 書き出しや段落の始めは、3マス目から書き始める。
4. 会話文は、原則として行を替え、第一カギで囲んで書く。
5. 句読点や会話を閉じるカギなど、ひと続きに書くべき語句や符号がその行に入りきらないときには、行移しをして書く。

【資料28】（1年 P325 全学年共通）

常用漢字表 付表

「明日」－「めい みよう（あ__かり あか__るい あか__るむ あか__らむ
あき__らか あ__ける あ__く あ__くる あ__かす）」 「にち じつ（ひ か）」
「小豆」－「しょう（ちい__さい こ お）」 「とう ず（まめ）」

「海女」－「かい（うみ）」 「じょ によ によ（おんな め）」
「海士」－「かい（うみ）」 「し」（さむらい）
「硫黄」－「りゅう」（いおう） 「こう おう（き）」
「意気地」－「い」（こころ） 「き け」（「気持ち」の「き」 「ち じ」（つち）
「田舎」－「でん（た）」 「しゃ」（やどる）
「息吹」－「そく（いき）」 「すい（ふく）」
「海原」－「かい（うみ）」 「げん（はら）」
「乳母」－「にゅう（ちち ち）」 「ぼ（はは）」
「浮気」－「ふ（うく うかれる うかぶ うかべる）」 「き け」（「気持ち」の「き」）
「浮」つく－「ふ（うく うかれる うかぶ うかべる）」
「笑顔」－「しょう（わらう えむ）」 「がん（かお）」
「叔父」－「しゆく」（父母の年下のきょうだい） 「ふ（ちち）」
「伯父」－「はく」（父母の年上のきょうだい） 「ふ（ちち）」
「大人」－「だい たい（おお おおきい おおいに）」 「じん にん（ひと）」
「乙女」－「おつ（わかい）」 「じょ によ みょう（おんな め）」
「叔母」－「しゆく」（父母の年下のきょうだい） 「ぼ（はは）」
「伯母」－「はく」（父母の年上のきょうだい） 「ぼ（はは）」
お「巡」りさん－「じゅん（めぐる）」
お「神酒」－「しん じん（かみ かん こう）」 「しゅ（さけ さか）」
「母屋」－「ぼ（はは）」 「おく（や）」
「母家」－「ぼ（はは）」 「か け（いえ や）」
「かあ」さん－「ぼ（はは）」
「神楽」－「しん じん（かみ かん こう）」 「がく らく（たのしい たのしむ）」
「河岸」－「か（かわ）」 「がん（きし）」
「鍛冶」－「たん（きたえる）」 「や」（いもの）
「風邪」－「ふう ふ（かぜ かざ）」 「じゃ」（よこしまな）
「固唾」－「こ（かためる かたまる かたい）」 「だ（つば）」
「仮名」－「か け（かり）」 「めい みょう（な）」
「蚊帳」－「（か）」（こんちゅう） 「ちょう」（とぼり）
「河原」－「か（かわ）」 「げん（はら）」
「川原」－「せん（かわ）」 「げん（はら）」
「為替」－「い（ため、なす）」 「たい（かえる かわる）」
「昨日」－「さく」（前日） 「にち じつ（ひ か）」
「今日」－「こん きん（いま）」 「にち じつ（ひ か）」
「果物」－「か（はたす はてる はて）」 「ぶつ もつ（もの）」
「玄人」－「げん」（「げんまい」の「げん」） 「じん にん（ひと）」
「今朝」－「こん きん（いま）」 「ちょう（あさ）」
「景色」－「けい」（かげ） 「しょく しき（いろ）」
「心地」－「しん（こころ）」 「ち じ」（つち）
「居士」－「きよ（いる）」 「し」（さむらい）
「今年」－「こん きん（いま）」 「ねん（とし）」
「早乙女」－「そう さつ（はやい はやまる はやめる）」 「おつ（わかい）」 「じょ によ
によ（おんな め）」
「雑魚」－「ざつ ぞう」 「ぎよ（うお さかな）」
「栈敷」－「さん」（かけはし） 「ふ（しく）」
差し「支」える－「し（ささえる）」
「五月」－漢数字の「5」 「げつ がつ（つき）」
「早苗」－「そう さつ（はやい はやまる はやめる）」 「びょう（なえ なわ）」
「五月雨」－漢数字の「5」 「げつ がつ（つき）」 「う（あめ あま）」
「時雨」－「じ（とき）」 「う（あめ あま）」
「尻尾」－「（しり）」 「び（お）」

「竹刀」－「ちく (たけ)」 「とう (かたな)」
「老舗」－「ろう (お__いる ふ__ける)」 「ほ (みせ)」
「芝生」－「(しば)」 (稲科の植物) 「せい しょう (い__きる い__かす い__ける
う__まれる う__む お__う は__える は__やす き なま)」
「清水」－「せい しょう (きよ__い きよ__まる きよ__める)」 「すい (みず)」
「三味線」－漢数字の「3」 「み (あじ あじ__わう)」 「せん」 (すじ)
「砂利」－「さ しゃ (すな)」 「り (き__く)」
「数珠」－「すう す (かず かぞ__える)」 「しゅ」 (たま)
「上手」－「じょう しょう (うえ うわ かみ あ__げる あ__がる のぼ__る のぼ__せる のぼ__
す)」 「しゅ (て た)」
「白髪」－「はく びやく (しろ しら しろ__い)」 「はつ (かみ)」
「素人」－「そ す」 「じん にん (ひと)」
「師走」－「し (せんせい)」 「そう (はし__る)」
「数寄屋」－「すう す (かず かぞ__える)」 「き (よ__る よ__せる)」 「おく (や)」
「数奇屋」－「すう す (かず かぞ__える)」 「き (めずらしい・すぐれている)
「おく (や)」
「相撲」－「そう しょう (あい)」 「ぼく」 (うつ・なぐる)
「草履」－「そう (くさ)」 「り (は__く)」
「山車」－「さん (やま)」 「しゃ (くるま)」
「太刀」－「たい た (ふと__い ふと__る)」 「とう (かたな)」
立ち「退」く－「たい (しりぞ__く しりぞ__ける)」
「七夕」－漢数字の「7」 「せき (ゆう)」
「足袋」－「そく (あし た__りる た__る た__す)」 「たい (ふくろ)」
「稚児」－「ち (わかい・おさない)」 「じ に」
「一日」－漢数字の「1」 「にち じつ (ひ か)」
「築山」－「ちく (きず__く)」 「さん (やま)」
「梅雨」－「ばい (うめ)」 「う (あめ あま)」
「凸凹」－「とつ (でっぱり)」 「おう (へこみ)」
「手伝」う－「しゅ (て た)」 「でん (つた__わる つた__える つた__う)」
「伝馬船」－「でん (つた__わる つた__える つた__う)」 「ば (うま ま)」
「せん (ふね ふな)」
「投網」－「とう (な__げる)」 「もう (あみ)」
「父」さん－「ふ (ちち)」
「十重二十重」－漢数字の「10」 「じゅう ちょう (え おも__い かさ__ねる
かさ__なる」 漢数字の「2」 漢数字の「10」 「じゅう ちょう (え おも__い
かさ__ねる かさ__なる)」
「読経」－「どく とく とう (よ__む)」 「けい きょう (へ__る)」
「時計」－「じ (とき)」 「けい (はか__る はか__らう)」
「友達」－「ゆう (とも)」 「たつ (複数の意味)」
「仲人」－「ちゅう (なか)」 「じん にん (ひと)」
「名残」－「めい みょう (な)」 「ざん (のこ__る のこ__す)」
「雪崩」－「せつ (ゆき)」 「ほう (くず__れる くず__す)」
「兄」さん－「けい きょう (あに)」
「姉」さん－「し (あね)」
「野良」－「や (の)」 「りょう (よ__い)」
「祝詞」－「しゅく しゅう (いわ__う)」 「し (ことば)」
「博士」－「はく ぼく」 (ひろい) 「し (さむらい)」
「二十」－漢数字の「2」 漢数字の「10」
「二十歳」－漢数字の「2」 漢数字の「10」 「さい せい」
「二十日」－漢数字の「2」 漢数字の「10」 「にち じつ (ひ か)」
「波止場」－「は (なみ)」 「し (と__まる と__める)」 「じょう (ば)」
「一人」－漢数字の「1」 「じん にん (ひと)」

「日和」－「にち じつ (ひ か)」「わ お (やわ__らぐ やわ__らげる なご__む
 なご__やか)」

「二人」－漢数字の「2」「じん にん (ひと)」

「二日」－漢数字の「2」「にち じつ (ひ か)」

「吹雪」－「すい (ふ__く)」「せつ (ゆき)」

「下手」－「か げ (した しも もと さ__げる さ__がる くだ__る
 くだ__す くだ__さる お__ろす お__りる)」「しゅ (て た)」

「部屋」－「ぶ (くぶん)」「おく (や)」

「迷子」－「めい (まよ__う)」「し す (こ)」

「真面目」－「しん (ま)」「めん (おも おもて つら)」「もく ぼく (め ま)」

「真っ赤」－「しん (ま)」「せき しゃく (あか あか__い あか__らむ
 あか__らめる)」

「真っ青」－「しん (ま)」「せい しょう (あお あお__い)」

「土産」－「ど と (つち)」「さん (う__む う__まれる うぶ)」

「息子」－「そく (いき)」「し す (こ)」

「眼鏡」－「がん げん (まなこ)」「きょう (かがみ)」

「猛者」－「もう (たけし)」「しゃ (もの)」

「紅葉」－「こう く (べに くない)」「よう (は)」

「木綿」－「ぼく もく (き こ)」「めん (わた)」

「最寄り」－「さい (もつと__も)」「き (よ__る よ__せる)」

「八百長」－漢数字の「8」漢数字の「百」「ちょう (なが__い)」

「八百屋」－漢数字の「8」漢数字の「百」「おく (や)」

「大和」－「だい たい (おお おお__きい おお__いに)」「わ お (やわ__らぐ
 やわ__らげる なご__む なご__やか)」

「弥生」－「や (数の多いこと)」「せい しょう (い__きる い__かす い__ける
 う__まれる う__む お__う は__える は__やす き なま)」

「浴衣」－「よく (あ__びる あ__びせる)」「い (ころも)」

「行方」－「こう ぎょう あん (い__く ゆ__く おこな__う)」「ほう (かた)」

「寄席」－「き (よ__る よ__せる)」「せき (座る場所)」

「若人」－「じゃく にゃく (わか__い も__しくは)」「じん にん (ひと)」

【資料29】 (1年 P162 上)

訓読とは

「矛盾」の故事が書かれている「韓非子」は、中国の古典であり、その原文は、漢字のみを縦に連ねた漢文である。語順が日本語と違うので、そのままでは意味を捉えることができない。そこで、私たちの祖先は、漢文を日本語の文章として読み直すために、「訓読」という手法を生み出した。漢文を日本語の文章として読むことを「訓読する」という。

訓読とは

漢字のみで書かれた原文(「白文」という)に送り仮名を補ったり、返り点や句読点をつけたりして、日本語の文章として読めるようにすることを訓読という。訓読のためにつけるさまざまな符号をまとめて「訓点」という。

1. 送り仮名・・・

これらの符合を基に漢文を訓読し、以下のように書き改めたものを「書き下し文」という。なお、点字では「書き下し文」で学習する。

(書き下し文)

ある人いはく、「子の矛をもつて、子の盾を陥さばいかん。」と。
 その人応ふることあたはざるなり。

【資料30】（1年 P167）

産卵時期と産卵場所の比較

	時期	水深（m）
田沢湖のマス	冬～早春	40～50
西湖のマス	3月	30～40
ヒメマス	秋	2～15

【資料31】（1年 P172 上）

- 1 次の「 」で示した部分は同じ漢字である。
- 2 次の「 」で示した熟語と似た意味の熟語を、後の四つ熟語の中から選ぼう。
- 1 次の「 」で示した部分は、小学校で習った漢字である。
- 2 次の各文について「 」で示した部分は、同じ部首を持つ漢字である。
 - (1) どんべん
 - (2) ひへん・にちへん

【資料32】（1年 P182）

（根拠を書き出した例）

-
1. 観点
 2. 具体的な特徴（根拠）
 3. 感じたこと・想像したこと
-
1. 音
 2. しま模様のドレスの・・・
 3. 女性二人が背中を・・・
-
1. 音
 2. 後ろにたくさんの・・・
 3. 軽快なダンスの・・・
-
- ・・・
-

【資料33】（1年 P218）

漢字を確認しよう

新しく習った漢字

- 1 次の「 」で示した部分は新しく習った漢字である。
- 2 後の（ ）の意味の慣用句になるように、□に合う言葉を後の言葉から選ぼう。

小学校で習った漢字

- 1 次の「 」で示した部分は、小学校で習った漢字である。
- 2 次の各文について「 」で示した部分は、同じ部首を持つ漢字である。

(1) すん

- ア. 「専」門分野を究める。（セン もっぱ__ら）
- イ. 人々の「尊」敬を集める。（ソン とうと__い）

(2) うかんむり

- ア. 大切な「宝」石をしまう。（ホウ たから）
- イ. 「宇宙」に関する本を読む。（う）（ちゅう）

【資料34】（1年 P222～223）

漢字3

漢字の成り立ちには、「象形」「指事」「会意」「形声」とよばれるものがある。

(1) 象形 — 物の形をかたどって、その物を表す。

(例) ば (うま)

馬

(2) 指事 — 抽象的な事柄を、記号やその組み合わせで表す。

(例) ジョウ (うえ) カ (した)

上

下

(3) 会意 — 二つ以上の字を組み合わせて、新しい意味を表す。

(例) き き りん (はやし)

木 木 → 林

くち とり めい (な__く)

口 鳥 → 鳴

(4) 形声 — 二字を組み合わせて、一方で音、他方で意味を表す。音を表す部分を「音符」、意味を表す部分を「意符」とよぶ。音符は音だけでなく、意味も表す場合がある。

(例) いふ おんぷ ドウ

金 同 → 銅

いふ おんぷ セイ (きよ__い)

シ 青 → 清

「ドウ」の漢字、左の「かねへん」が金属を示す意符であり、右の「どう」が音符である。

「セイ」の漢字は、左の「さんずい」が意味を表す水の意符であり、右の「せい(あお)」が音符であると同時に「澄みきっている」という意味も表す。

(例) ひ た はたけ (はた)

火 田 → 畑

やま うえ した とうげ

山 上 下 → 峠

【資料35】（1年 P223）

練習問題

1 次の「 」で示した部分の漢字の成り立ちは、それぞれ（ ）に示した通りである。それぞれの漢字の意味を調べてみよう。

- (1) 「月」曜日 (象形)
- (2) 「忠」実 (形声)
- (3) 「本」棚 (会意)
- (4) 「河」川敷 (形声)
- (5) 年「末」 (指事)
- (6) 「武」勇伝 (形声)

2 次の「 」で示した部分の漢字は、会意文字である。それぞれの漢字の意味を調べてみよう。

- (1) 「岩」石
- (2) 「明」暗を分ける
- (3) 子「孫」繁栄
- (4) 通「信」手段

3 次の「 」で示した部分の漢字は、共通する音符を持っている。それぞれの熟語例を参考にして、同じ音を持つ別の熟語を作ってみよう。

- (1) 炊「飯」器 黒「板」 「販」売員

- (2) 「署」名捺印 近隣「諸」国 由「緒」
- (3) 「輸」出 「愉」快 教「諭」
- (4) 「河」川敷 幾「何」学 「苛」烈
- (5) 「伯」爵 「拍」手 宿「泊」

【資料36】（1年 P227）
（推敲の例）

あなたも、新しい環境で、少し不安もあるかもしれませんが、そんなときこそ、大きな声で挨拶をしてみましょう。きっと必ず答えてくれる人がいるはずだ。
挨拶は心を開くボタンです。

訂正

- 1. 2 しれませんが → しれません。 でも、
- 1. 4 必ず → （削除）
- 1. 4 はずだ → はずです
- 1. 5 挨拶は → 挨拶は、
- 1. 5 ボタン → スイッチ

訂正のポイント

- 1. 長すぎる一文を短くした。
- 2. 余分な言葉を取った。
- 3. 文末表現を、敬体で統一した。
- 4. 読点を入れた。
- 5. 別の言葉に変えた。
- 6. 文が2ページ以上にわたる場合には、ページ数も書くようにする。

【資料37】（1年 P229）

文法への扉3

次の単語を組み合わせて、文を三つ作ろう。

（条件）

- 1. 単語は何回使ってもよい。
 - 2. 必要ならば、単語の形を変えても良い。
- （例）「行く」と「ます」で「行きます」

美術館 海辺 自動車 りんご 弁当 私 絵
とても ゆっくり
あの
そして
ああ
見る 行く 食べる 乗る
おいしい 赤い
元気だ 静かだ
に を で の が わ
ます たい た

【資料38】（1年 P233）

（ポスターの例）

きっとまた読みたくなる！

「星の花が降るころに」の魅力

1年3組

池田・高橋・野間・林

「名場面ランキング」

1. 「私」に「戸部君」冗談を言う場面
2. 「私」が銀木犀の下をくぐって出る最後の場面
3. 「戸部君」が校庭の隅でボールの手入れをしている場面

1年3組32名へのアンケート結果から

（魅力1 想像の広がる終わり方）

この後、「私」はどうなると思いますか。

「夏実」と親友に戻る－8人

別の友達を作る－14人

その他－10人

（魅力2 「戸部君」の存在）

- (1) 人間関係で悩んでいる時、あなたは友達にどう接して欲しいですか。

そっとしておいてほしい－13人

悩みを聞いてほしい－7人

励ましてほしい－5人

笑わせてほしい－4人

その他－3人

- (2) あなたが「私」だったら、「戸部君」の言葉を聞いてどう思いますか。

うれしい・元気になる－23人

そっとしておいてほしい－4人

その他－5人

題名－見る人の興味を引くように、印象的なキャッチコピーをつけるとよい。

1. ひと目見て、内容がわかるもの。

2. 説明を聞きたくくなるような、魅力的なもの。

表やグラフー 調査結果などの数値はそのまま示すより、表やグラフに置き換えた方がわかりやすい。説明したい内容に合った表やグラフの種類を選ぶ。（○巻○ページ「資料の工夫」参照）

割り付けー 文字や図表、写真などを紙面に配置することを割り付け（レイアウト）という。次の点に気をつけながら、見やすく魅力的な紙面構成を工夫するとよい。

1. 内容の分量や順序。
2. 文字の書き出し位置や囲み符号、飾り。
3. 図表などの位置。

【資料39】（2年 P29）

漢字を確認しよう

（新しく習った漢字）

1. 次の「 」で示した部分は同じ漢字である。語の意味を考えながら読もう。

(1)

ア. うちの犬は「雄」だ。

イ. 雌「雄」を決するときだ。

(2)

- ア. 「脚」光を浴びる。
- イ. テーブルの「脚」。

(3)

- ア. 道路を「封」鎖する。
- イ. 彼の考えは「封」建的だ。

2. 次の「 」で示した部分は同じ部首の漢字である。それぞれの熟語を読もう。

(1)ちから

- ア. 事情を「勘」案する。
- イ. 弾「劾」する。
- ウ. 「勃」発する。

(2)あなかんむり

- ア. 「突」然
- イ. 「窒」素
- ウ. 「窯」元

(3)しんにょう・しんにゅう

- ア. 「逃」亡する。
- イ. 「逸」話の人。
- ウ. 御「逝」去

(4)くちへん

- ア. 「吹」奏楽
- イ. 満「喫」
- ウ. 先生に一「喝」される。
- エ. 注意を「喚」起する。

(新しく習う音訓)

1. 次の「 」で示した部分は同じ漢字である。読みの違いに注意して、それぞれの熟語を読もう。

- (1)「音」楽 福「音」書
- (2)「仮」面 「仮」病
- (3)散「歩」する 「歩」合
- (4)卵「黄」 「黄」砂現象
- (5)「境」界線 「境」内
- (6)「拾」得物 金「拾」万円

【資料40】(2年 P30 下)

(メモの例)

「-----」
職場体験
「和菓子 内田さん」

お店の場所
1. 学校前
→市バスで三つ目
2. さつき公園前
・・・
「-----」

規則（「きまり」と「きまり」）
縮小（「ちぢむ」と「ちいさい」）
山岳（「やま」と「やま」）
搭乘（「のる」と「のる」） など

2. 意味が対になる漢字の組み合わせ。

（例）

善悪（「よい」と「わるい」）
前後（「まえ」と「うしろ」）
売買（「うる」と「かう」）
強弱（「つよい」と「よわい」）
禍福（「わざわい」と「しあわせ」）
慶弔（「いわう」と「とむらう」） など

3. 主語と述語の関係。

（例）

地震（地が震える）
国営（国が営む）
雷鳴（雷が鳴る）
日照（日が照る）
人造（人がつくる） など

4. 後の漢字が前の漢字の目的や対象を示す。

（例）

洗顔（顔を洗う）
登山（山に登る）
開会（会を開く）
造園（そのをつくる）
遷都（みやこをうつす）
帰郷（ふるさとに帰る）
就職（職につく） など

5. 前の漢字が後の漢字を修飾する。

（例）

軽傷（軽い傷）
激増（激しく増える）
水路（水のみち）
熱心（うちこむ心）
俊足（すばやい足）
猛犬（気の荒い犬）
逆流（さかさまの流れ） など

この他に、「刻々」（「こく」は「きざむ」）「喜々」（「き」は「よろこぶ」）など、同じ漢字を重ね、その状態や様子を強調して表す熟語もある。

三字熟語の主な構成

1. 漢字一字の言葉の組み合わせ。

（例）

衣食住（「ころも」と「たべる」と「すむ」）
上中下（「うえ」と「なか」と「した」）
松竹梅（「まつ」と「たけ」と「うめ」） など

2. 漢字一字の言葉と二字熟語の組み合わせ。

前に打ち消しの意味の「不」「無」「非」「未」や、後ろに「的」「性」「化」などが付いたものも多い。

(例)

- 大成功（「おおきい」と「せいこう」）
- 専門家（「せんもん」と「か」）
- 不安定（「ふ」と「あんてい」）
- 絶対的（「ぜったい」と「てき」）
- 初対面（「しょ」と「たいめん」）
- 肖像画（「しょうぞう」と「が」）
- 無意味（「む」と「いみ」）
- 可能性（「かのう」と「せい」）など

四字以上の熟語の構成

1. 漢字一字の言葉の組み合わせ。

(例)

- 春夏秋冬（「はる」「なつ」「あき」「ふゆ」）
- 花鳥風月（「はな」「とり」「かぜ」「つき」）など

2. 二字熟語の組み合わせ。

(例)

- 課外授業（「かがい」と「じゅぎょう」）
- 国際交流（「こくさい」と「こうりゅう」）

3. 漢字一字の言葉と二字熟語の組み合わせ。

(例)

- 大雨注意報（「おおあめ」と「ちゅうい」と「ほう」）
- 運転免許証（「うんてん」と「めんきょ」と「しょう」）など

【資料43】（2年 P40）

（練習問題）

1 次の(1)～(5)の「 」で示した熟語は、それぞれ同じ構成の熟語である。どんな構成か調べてみよう。

(1)

- ア. 「自我」が強い。
- イ. 「優秀」な成績。
- ウ. 空気「清浄」機

(2)

- ア. 「着色」料
- イ. 「兼業」農家

(3)

- ア. 「国立」大学
- イ. 「日没」

(4)

- ア. 「麦芽」糖
- イ. 「濃霧」注意報
- ウ. 「極秘」

(5)

- ア. 「師弟」関係
- イ. 「雌雄」を決する。
- ウ. 兄弟「姉妹」

2 次の(1)～(4)の□には「不・無・非・未」のいずれかを、(5)～(7)の□には「的・性・化」のいずれかを入れて、三字熟語を作ろう。

- (1) □ 経験
- (2) □ 本意
- (3) □ 秩序
- (4) □ 常識
- (5) 比較 □
- (6) 有料 □
- (7) 妥当 □

3 次の四字熟語の意味を調べよう。

- (1) 東奔西走
- (2) 喜怒哀楽
- (3) 軽挙妄動
- (4) 疾風迅雷
- (5) 鯨飲馬食
- (6) 温厚篤実

【資料44】 (2年 P50)

漢字を確認しよう

(新しく習った漢字)

1. 次の「 」で示した部分は同じ漢字である。語の意味を考えながら読もう。

- (1)
 - ア. 海に「潜」る。
 - イ. 洞窟に「潜」む。
- (2)
 - ア. 小鳥が「餌」を食べる。
 - イ. 根気よく「餌」付けする。
- (3)
 - ア. 妹はよく「眠」る。
 - イ. 十分な睡「眠」をとる。

2. 次の「 」で示した部分は同じ部首の漢字である。それぞれの言葉を読もう。

- (1)かばねへん
 - ア. うなぎの養「殖」。
 - イ. 「殊」勲賞
 - ウ. 警察官が「殉」職する。
- (2)やまへん
 - ア. 「岬」の灯台。
 - イ. 人生の「岐」路に立つ。
 - ウ. 霊「峰」富士
 - エ. 海「峡」を渡る。

3. 次の「 」で示した部分はそれぞれ同じ音をもつ異なる漢字である。漢字の意味を考えよう。

- (1)
 - ア. 一年の計は元「旦」にあり。
 - イ. 肝「胆」相照らす。
- (2)
 - ア. 「租」税を撤廃する。
 - イ. 「狙」撃手
 - ウ. 進歩を「阻」害する。

(新しく習う音訓)

1. 次の(1)～(5)と後のア.～オ.の語句を結びつけて、ことわざを作ろう。

- (1)江戸の敵を
- (2)郷に入っては
- (3)笑う門には
- (4)君子危うきに
- (5)親思う心に
- ア. 福来る
- イ. 勝る親心
- ウ. 長崎で討つ
- エ. 郷に従え
- オ. 近寄らず

【資料45】 (2年 P54)

(進行案の例)

3班のおすすめ散策コース

「小さい夏、見つけた！」

1. 初めに(石田・白石) (15秒)

(提示する資料1) おすすめの散策コース

「小さい夏、見つけた！」

散策時間—3時間(地元の大人の方へ)

(説明内容)

コースのキャッチフレーズ—「小さい夏、見つけた！」(全員)

散策時間—3時間

地元の大人の方に向けて

2. コースの概要(北村) (15秒)

(提示する資料2) コースの地図

(説明内容)

「ポイントは二つあります。」

(1)ふるさと再発見

(2)ふるさと新発見

3. ポイント(1)ふるさと再発見(中谷) (1分)

(提示する資料3) ふるさと再発見

昔ながらの散歩道—広がる田んぼ、感じる自然

竹やぶのそよ風を浴びて—涼しい、気持ちいい、爽やか

(説明内容)

まだ残るあぜ道(写真)

竹やぶのそよ風(実物のささ)

4. ポイント(2)ふるさと新発見(石本) (1分)

(提示する資料4) ふるさと新発見

親水公園の足湯—歩いた後は、ほっと一息

蛍の放流体験—話した蛍と再会しよう

(説明内容)

親水公園の足湯(写真)

蛍の放流(イラスト)

5. まとめとピーアール（大田）（30秒）

（提示する資料5）「小さい夏、見つけた！」（水辺で遊ぶ子どもたちのイラスト）
（説明の内容）

特に夕暮れ時がおすすめ
なつかしいけど新しい

┌-----┐

【資料46】（2年 P105）

漢字を確認しよう

（新しく習った漢字）

1. 次の「 」で示した部分は同じ漢字である。語の意味を考えながら読もう。

(1)

ア. 暗い夜道は「怖」い。

イ. 畏「怖」の念を抱く。

(2)

ア. 水たまりの上を「跳」ぶ。

イ. 魚が「跳」ねる。

ウ. 高く「跳」躍する。

2. 次の「 」で示した部分はそれぞれ同じ音をもつ異なる漢字である。漢字の意味を考えよう。

(1)

ア. 暗「礁」に乗り上げる。

イ. 「焦」点を絞る。

(2)

ア. 明「瞭」な発音。

イ. 会社の同「僚」。

(3)

ア. 不満が「噴」出する。

イ. 古「墳」を見学する。

【資料47】（2年 P124）

漢字を確認しよう

（新しく習った漢字）

1. 次の「 」で示した部分には新しく習った漢字が含まれる。語の意味を考えながら読もう。

(1) 上告を「棄却」する。

(2) 「飢」えに苦しむ。

(3) 「硬軟」を使い分ける。

(4) 投手が「孤軍奮闘」する。

(5) 「脱獄」を阻止する。

2. 次の「 」で示した部分はそれぞれ異なる漢字である。漢字の意味を考えよう。

(1)

ア. 激しく「抗」議する。

イ. 炭「坑」で働く。

(2)

ア. ゾウの「巨」体。

イ. 立退きを「拒」否する。

(3)

ア. 歌会に「陪」席する。

イ. 草木を「培」養する。

(4)

- ア. 豊かな土「壤」。
- イ. 和やかな雰囲気「醸」成する。

(5)

- ア. 大「邸」宅
- イ. 法に「抵」触する。

3. 次の「 」で示した語は同じ部首の漢字である。それぞれの熟語の意味を調べよう。

(1) くさかんむり

- ア. 「薪」炭を商う。
- イ. 心理的「葛」藤
- ウ. 海「藻」サラダ

(2) き

- ア. 盆「栽」を育てる。
- イ. 将「棋」を指す。
- ウ. 「楷」書で書く。

(新しく習う音訓)

1. 次の「 」で示した部分は同じ漢字である。語の意味を考えながら読もう。

(1)

- ア. 「強」情を張らずに謝る。
- イ. 他人に無理を「強」いる。

(2)

- ア. 勝利の「女」神がほほ笑む。
- イ. 天「女」が軽やかに舞う。

【資料48】 (2年 P126)
 (尊敬語と謙譲語の例)

動詞の場合

1. 動詞全般に使える形

「尊敬語」	「謙譲語」
お(ご)・・・になる	お(ご)・・・する
・・・れる	
・・・られる	

2. 特定の形に変化する動詞

	「尊敬語」	「謙譲語」
行く・来る	いらっしゃる おいでになる	参る・伺う
いる	いらっしゃる おいでになる	おる
言う・話す	おっしゃる	申す・申し上げる
見る	ご覧になる	拝見する
食べる	めしあがる	いただく
する	なさる	いたす
くれる	くださる	――
もらう	――	いただく
聞く	――	伺う・承る
知る・思う	――	存じる

名詞の場合

1. 名詞全般に付く形

「尊敬語」	「謙讓語」
(先生からの)	(先生への)
「お」手紙	「お」手紙
(先生からの)	(先生への)
「ご」意見	「ご」意見

2. 特定の名詞に付く形

「尊敬語」— 「芳」名・「御」社・「貴」校（あなたの学校）・「尊」父
「謙讓語」— 「愚」見・「弊」社・「拙」著・「粗」品

【資料49】（2年 P129 下）

（練習問題）

次の文の「 」で示した漢字は（ ）のどちらの意味か。またもう一方の漢字の音を調べよう。

- (1) 人権を「おかす」ことは許されない。（あえて行う 侵害する）
- (2) 法案を倫理委員会に「はかる」。（くわだてる 相談する）
- (3) 管弦楽団の指揮を「とる」。（とらえる 執り行う）
- (4) 青銅で鐘を「いる」。（はなつ 金属を溶かして物をつくる）
- (5) 二酸化炭素を「はいしゅつ」する。（要らないものを出すこと 優れた人物を世に出すこと）
- (6) 「くじゅう」の選択を迫られる。（苦い経験 苦しみ悩むこと）
- (7) 核兵器の「きょうい」を訴える。（ひどく驚くこと 何者かに脅されること）
- (8) 他人の行動に「かんしょう」しない。（口出しをすること 感じて心をいためること）
- (9) 「へいこう」感覚を失って転ぶ。（並び行われること つりあい）
- (10) 市民が自由を「きょうじゅ」する。（教え授けること 味わい楽しむこと）
- (11) 打球の「きせき」が弧を描く。（常識では考えられない出来事 物体の運動によってできる図形）

【資料 50】（2年 P238）

「文節どうしの関係と連文節どうしの関係」

（例）山の上に白い家がある。

（文節どうしの関係）

山の（連体修飾語）→上に

白い（連体修飾語）→家が

家が（主語）→ある（述語）

（連文節どうしの関係）

山の上に（連用修飾部）→ある（述語）

白い家が（主部）→ある（述語）

【資料 51】（2年 P239）

（例）山の上に白い家がある。

（自立語と付属語）

自立語—山 上 白い 家 ある

付属語—の に が

（活用の有無）

活用がある—白い ある

活用がない—山 の 上 に 家 が

【資料 52】（2年 P257～260）

1 次の「 」で示した部分の漢字は6年生で学習した漢字である。

2 次の各組の「 」で示した部分は、同じ漢字である。それぞれの熟語の意味を調べよう。

- (1) 立候「補」 「補」強 「補」助 「補」給
- (2) 苦「難」 「難」破船 「難」解な文章 「難」易度
- (3) 財「宝」 国「宝」 「宝」石 我が家の家「宝」
- (4) 駅の階「段」 石「段」 「段」落 手「段」
- (5) 死「亡」届 「亡」命 国家の興「亡」 「亡」国
- (6) 「納」品 収「納」 「納」税 「納」期が迫る
- (7) 「善」意 「善」行を積む 「善」良な人 親「善」試合
- (8) 自「律」的 規「律」を守る 調「律」師 法「律」
- (9) 注「射」器 放「射」状 反「射」 ロケットの発「射」
- (10) 「映」像 上「映」 「映」画館 世相を反「映」する

3 次の各組の「 」で示した部分は、同じ音であるが、それぞれ違う漢字である。

- (1) たん — 長さの「単」位 「短」気な人 「誕」生日
- (2) だん — 横「断」歩道 温「暖」化 相「談」
- (3) こん — 「困」難 「混」雑 「根」気強い
- (4) しょう — 「招」待者 故「障」車 民間伝「承」

4 次の四字の漢字でできた熟語の意味を調べよう。

- (1) 臨時休業
- (2) 公私混同
- (3) 秘密厳守
- (4) 皇后陛下

5 次の熟語は同じ偏をもつ二字の漢字でできている。偏の意味を確認し、熟語の意味を調べよう。

- (1) 肺臓（にくづき）
- (2) 源流（さんずい）
- (3) 議論（ごんべん）
- (4) 俳優（にんべん）
- (5) 植樹（きへん）
- (6) 地域（つちへん）
- (7) 価値（にんべん）
- (8) 激減（さんずい）
- (9) 呼吸（くちへん）
- (10) 誤読（ごんべん）

6 次の各組の「 」で示した部分は、同じ漢字である。それぞれの熟語の意味を調べよう。

- (1) 「策」略 外交政「策」
- (2) 「筋」肉 道「筋」
- (3) 正しい「姿」勢 容「姿」
- (4) 「革」命 皮「革」製品
- (5) 国立「劇」場 演「劇」
- (6) 「紅」白 口「紅」
- (7) 「骨」折 背「骨」
- (8) 「宅」地 住「宅」
- (9) 「勤」務 欠「勤」
- (10) 「尺」度 縮「尺」
- (11) 「穀」物 米「穀」
- (12) 「仁」術 「仁」愛

7 それぞれが慣用句になるように、A群から語句を選ぼう。また、その慣用句の意味を、B群から選び、記号で答えよう。

- | | |
|--------|--|
| (1) 耳を | |
| (2) 頬を | |
| (3) 肩を | |
| (4) 腹を | |
| (5) 舌を | |

A群

- 割る
- 巻く
- 染める
- 疑う
- 並べる

B群

- ア. 包み隠さずに話すこと。
- イ. 恥ずかしそうにすること。
- ウ. 非常に感心すること。
- エ. 聞いたことが信じられないこと。
- オ. 対等な力をもつこと。

【資料53】（2年 P141）

（源氏と平家の戦い）

1. 石橋山の戦い(1180年8月)
2. 富士川の戦い(1180年10月)
3. 倶利伽羅峠の戦い(1183年5月)
4. 宇治川の戦い(1184年1月)
5. 一の谷の戦い(1184年2月)
6. 屋島の戦い(1185年2月)
7. 壇の浦の戦い(1185年3月)

【資料54】（2年 P164）

漢字を確認しよう

（新しく習った漢字）

- 1 次の「 」で示した部分には、新しく習った漢字が含まれる。語の意味を考えながら読もう。

- (1) 庭の「芝」を刈る。
- (2) 「井戸」の水をくむ。
- (3) 「緩衝材」を入れる。
- (4) 「既刊」の本を買う。
- (5) 「舟」を岸につなぐ。

- 2 次の(1)～(4)の熟語について、()内を参考にして同じ構成の熟語をア.～ク. から二つずつ選ぼう。

- (1) 摩擦 (みがく、こする)
- (2) 興廃 (おこる、すたれる)
- (3) 配膳 (くばる、りょうり)
- (4) 論旨 (はなし、おもないう)

- ア. 執筆 (とる、ふで)
- イ. 油膜 (あぶら、うすいまく)
- ウ. 刑罰 (しおき、とがめ)
- エ. 屈伸 (かがむ、のびる)
- オ. 水紋 (みず、もよう)

- カ. 色彩 (いろ、いろどり)
- キ. 鑄金 (つくる、かなもの)
- ク. 精粗 (こまかい、あらい)

3 次の「 」で示した語は同じ部首の漢字である。それぞれの熟語を読もう。

- (1) ごんべん・ことば
 - ア. 嘱「託」で働く。
 - イ. 選手宣「誓」
 - ウ. 漢詩を朗「詠」する。
- (2) りっしんべん・こころ
 - ア. 「悔恨」の思い。(「かい」と「こん」)
 - イ. 哀「愁」を帯びた音色。
 - ウ. 戦没者追「悼」式典
 - エ. 遺「憾」に思う。

(新しく習う音訓)

4 次の文の「 」で示した語の意味を考えよう。

- (1) 重要な職務に「つく」。
- (2) 洋服の生地を「たつ」。
- (3) 作家が自伝を「あらわす」。
- (4) 彼を責任者に「おす」。

【資料55】 (2年 P181)

(東日本大震災で臨時災害放送局が開設された自治体)

岩手県

宮古市田老、宮古市、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市、
花巻市、奥州市

宮城県

気仙沼市、気仙沼市本吉、南三陸町、登米市、大崎市、女川町、
石巻市、塩竈市、名取市、岩沼市、亘理町、山元町

福島県

相馬市、南相馬市、福島市、富岡町、須賀川市、いわき市

茨城県

高萩市、鹿嶋市、つくば市、取手市

※総務省の資料を基に作成

【資料56】 (2年 P210)

漢字を確認しよう

(新しく習った漢字)

1 次の「 」で示した部分は同じ漢字である。語の意味を考えながら読もう。

- (1)
 - ア. 船に「酔」う。
 - イ. 音楽に陶「酔」する。
- (2)
 - ア. 敵を「欺」く。
 - イ. 詐「欺」に気をつける。
- (3)
 - ア. 「裸」一貫から始める。

イ. 「裸」眼の視力を調べる。

2 次の「 」で示した部分は同じ音の漢字である。漢字の意味を調べよう。

(1)

ア. 「卑」近な例。

イ. 石「碑」を建てる。

(2)

ア. 仕事の報「酬」。

イ. 「醜」態をさらす。

(3)

ア. 追「憶」にひたる。

イ. 「臆」面もない。

3 次の「 」で示した部分は同じ部首の漢字である。それぞれの熟語を読もう。

(1) にんべん

ア. 裁判を「傍」聴する。

イ. 「僧侶」になる。(「そう」と「りょ」)

ウ. 探「偵」をやとう。

エ. 彼は豪「傑」だ。

(2) うかんむり

ア. 華やかな「宴」席。

イ. 「寛容」な精神。(「かん」と「よう」)

ウ. 便「宜」を図る。

エ. 「寡」黙な人柄。

(新しく習う音訓)

1 次の(1)～(4)とア.～エ.のそれぞれの語句を結びつけて、文を作ろう。またその意味を調べよう。

(1) 挨拶を

(2) 商いに支障を

(3) 相手の機嫌を

(4) 己の生活を

ア. 来す

イ. 交わす

ウ. 省みる

エ. 損ねる

【資料57】 (2年 P216)

※国立国語研究所「日本語地図を基にしたもの」

「捨てる」の方言分布

すてる、すつるなど□-□北海道日本海側地域の一部、岩手県の一部、関東甲信越地方の一部、新潟県佐渡地方、伊豆大島、北陸東海地方の一部、滋賀県の一部、和歌山県沿岸部、淡路島の一部、兵庫県日本海側地域の一部、中国地方、愛媛県、高知県、徳島県の一部、福岡県の一部、熊本県山間部の一部、対馬・五島列島の一部

うしつる□-□佐賀県、長崎県、熊本県、大分県・宮崎県の一部、福岡県有明海沿岸地域の一部

うっする□-□鹿児島県、宮崎県・大分県・長崎県の一部

していゆん□-□沖縄県

ほーる、ほるなど□-□石川県能登半島の一部、福井県・三重県・和歌山県・京都府・兵庫県の一部、淡路島の一部、香川県、徳島県の一部

ほーかる、ほかるなど□-□北陸東海地方の一部、福岡県の一部

ほーかす、ほかすなど□-□近畿地方、福岡県の一部

なげる、ぶんなげるなど□-□北海道、東北地方、福井県の一部
うっちゃる□-□関東地方、静岡県・愛知県の一部
ぶちやる（ぶちやる）□-□新潟県、長野県、群馬県、山梨県、静岡県の一部

【資料58】（2年 P225）

漢字を確認しよう

（新しく習った漢字）

- 1 次の「 」で示した語の意味を考えよう。
 - (1) 喉に「炎症」が見られる。
 - (2) 小説の「梗概」を書く。
 - (3) 「滑稽」な話を聞く。
 - (4) 「花壇」に水をまく。
- 2 次の「 」で示した熟語の対義語を、後に挙げる熟語から選ぼう。
 - (1) 「湿潤」な土地に住む。
 - (2) 仕事が「円滑」に進む。
 - (3) ごみ箱から「悪臭」がする。
 - (4) クラスで校歌を「斉唱」する。

ほうこう かんそう どくしょう ていたい

- 3 次の「 」で示した部分は同じ部首の漢字である。それぞれの熟語を読もう。
 - (1) てへん
ア. 栄養を「摂」取する。
イ. 「挫折」する。（「ざ」と「せつ」）
ウ. 歌を「披」露する。
 - (2) みず・さんずい
ア. 「沸」騰する
イ. 大「洪水」（「こう」と「すい」）
ウ. 分「泌」する
エ. 音「沙汰」（「さ」と「た」）

（新しく習った音訓）

- 1 次の「 」で示した部分は同じ漢字である。語の意味を考えながら読もう。
 - (1) 河「川」を調査する。「川」遊び。
 - (2) 「機」織りの実演を見る。「機」械的。
 - (3) 旅「客」機に乗る。「客」間。
 - (4) 小「児」科にかかる。「児」童文学。

【資料59】（2年 P227）

練習問題

次の「 」の部分は同じ漢字である。その意味を調べよう。

1. 二体の人形を巧みに「あやつ」る。（「操」縦）
2. 悪人を「こ」らしめる。（「懲」罰）
3. ご提案を「つつし」んでお受けします。（「謹」賀新年）
4. 「ねば」り「づよ」く取り組む。（「粘」液□□最「強」）
5. 足腰を「きた」え「なお」す。（「鍛」錬□□「直」角）
6. 朝の練習を「なま」ける。（「怠」惰）
7. 責任者への報告を「おこた」る。（「怠」慢）

8. 安眠を「さまた」げられる。（「妨」害）
9. 疲労のあまり判断力が「にぶ」くなる。（「鈍」感）
10. 童歌を歌う「ほが」らかな声が響く。（明「朗」）
11. 子供が「すこ」やかに育つ。（「健」康診断）
12. 後に「うれ」いを残す。（「憂」鬱）
13. 栄養の「かたよ」りに注意する。（「偏」見）

【資料60】（3年 P14 上）

日付…○月○日

興味のある事柄…映画「○○」について（○○映画館）

自分の評価…

1. ストーリー—星3つ→終わり方が少し味気なかった。原作の方が二重丸。
2. キャスト—星5つ→全員イメージどおり！
3. 映像—星5つ→迫力があり、見応え十分。
4. 音楽—星5つ→壮大な感じがよく出ていた。
5. 総合—星5つ

原作が好きだったので見る前は不安だったが、想像以上によかった。映画館で見る価値あり。

【資料61】（3年 P14 下）

○月○日（日付）

「吾十有五にして学に志す。」（論語）

→私は十五歳のとき、学問に志を立てた。（言葉）

強い決意を感じる言葉だ。僕も十五歳。今年は特に、学問に励もうと思う。（感想）

○月○日

「学べば学ぶほど、自分が何も知らなかったことに気づく、気づけば気づくほどまた学びたくなる。」
（アルベルト アインシュタイン「○○の言葉」）

学ぶ→気づくというサイクルで学びが深まる。学ぶことについて考えさせられた。

【資料62】（3年 P30）

漢字を確認しよう

（新しく習った漢字）

1. 次の「 」で示した部分は同じ漢字である。語の意味を考えながら読もう。

(1)

- ア. ギターを「爪」弾く。
- イ. 慎重に「爪」を切る。

(2)

- ア. 山の麓で「鶏」を飼う。
- イ. 「鶏」卵を出荷する。

(3)

- ア. 彼は「穩」やかな人柄だ。
- イ. 「穩」便に話し合う。

2. 次の「 」で示した部分は、それぞれ異なる漢字である。それぞれの熟語の意味を考えよう。

(1)

名曲を「鑑」賞する。

火山活動を「監」視する。

(2)

荒地を開「墾」する。

「懇」意な間柄。

(3)

初志を貫「徹」する。

がれきを「撤」去する。

(4)

姉が「妊」娠する。

重要な「任」務。

3. 次の「 」で示した部分は、同じ部首の漢字である。それぞれの熟語を読もう。

(1) りっしんべん・こころ

ア. 「忌」避する。

イ. 「悦」楽にひたる。

ウ. 「怠惰」な生活。 (「たい」と「だ」)

エ. 休「憩」をとる。

(2) てへん

ア. 犯罪を「捜」査する。

イ. 身柄を「拘」束する。

ウ. 適切な「措」置をとる。

(新しく習う音訓)

1. 次の「 」で示した部分には、ア. ～ウ. のどの漢字を用いるだろう。

(1) 朝日に「は」える花の姿。

ア. 「生」命。雑草が「生」える。

イ. 「映」画。夕日に「映」える。

(2) 夜が明け「そ」める。

ア. 最「初」。桜が咲き「初」める。

イ. 「染」色。布を「染」める。

(3) 作家が自分の「お」い立ちを語る。

ア. 人「生」。草が「生」い茂る。

イ. 「負」担。責任を「負」う。

(4) 大勢の人を見て、気「おく」れする。

ア. 「遅」刻。時間に「遅」れる。

イ. 午「後」。「後」れ毛。

【資料63】 (3年 P35 中)

(評価メモ例)

1. 自分の考え

動物に接する機会少ない→ペット飼育を勧める

2. 発言者の意見

(北野さん)

家庭、学校での飼育体験→勧める

評価—自分の体験からのみ。責任感とは? 説得力三角

(橋田さん)・・・

3. 自分の考えとの比較

迷惑している人のことも考えると、・・・

・・・

【資料64】（3年 P38 下）

（構成メモの例）

1. 自己紹介・話題提示 （15秒）

話し方など…元気な声で。聞き手の方を向いて。

2. 森林ボランティアの作業内容。下草刈り・・・ （30秒）

話し方など…わかりにくい言葉を説明。ゆっくり丁寧に。

3. 体験（作業の様子・・・）・考えたこと（指導の方のお話・・・） （1分）

話し方など…作業前と作業後の写真、認定書を見せる。作業をする動作をやって見せる。

4. 森林ボランティアをアピール・終わりの挨拶 （15秒）

話し方など…アピールは、力強い声で。

【資料65】（3年 P39 下）

1. 自己紹介と話題の提示－第一段落

(1)公の場などでは、敬語を使うことが望ましい。

(2)問いかけや呼びかけをして、聞き手の興味を引き付ける。

「皆さんは、森林ボランティアをご存知ですか。」

2. 具体的な内容の説明－第二段落

わかりにくい言葉は、相手の反応を見ながら、丁寧に説明する。

「『下草刈り』とは、……刈り取るのです。」

3. 自分の体験（事実）や考え－第三・第四段落

(1)資料（写真など）を提示したり、身振りなどを交えたりして話す。「写真を見せながら 作業をする動作をしながら 写真を見せながら 認定証を見せながら」

(2)体験（事実）の他、考えや思いを話すときは、体験（事実）と考えとを区別して話すといふ。「祖先が……務めだと思います。」

4. 終わりの挨拶－第五段落

(1)呼びかけや印象に残るような表現で締めくくるとよい。

(2)聞いてもらったことに対して、お礼を述べる。

【資料66】（3年 P42）

複数の読み方をする熟語

(1)ネンゲツ としつき

(2)ミョウニチ あす

(3)うわて（彼のほうが一枚「上手」だ）

かみて（舞台の「上手」に立つ）

じょうず（姉は「上手」な字を書く）

「ネンゲツ としつき」や「ミョウニチ あす」は、いずれの読み方でも同じ意味を表すが、「うわて

かみて じょうず」は、同じ漢字を用いても読み方によって意味が異なる。

練習問題

1. 次の「 」で示した熟語を読もう。なお、重箱読みは(4)(10)(12)、湯桶読みは(3)(6)である。

- (1) 「峡谷」を探検する。
- (2) 「干潟」にすむ生物。
- (3) 「喪中」のはがき。
- (4) 藍色の「反物」を贈る。
- (5) 川の「浅瀬」を渡る。
- (6) 「錦絵」の展覧会。
- (7) まっすぐで「純粹」な瞳。
- (8) 国王に「謁見」する。
- (9) 「繭玉」を飾り付ける。
- (10) 「錠前」を取り付ける。
- (11) 患者を「治療」する。
- (12) 「基石」を片づける。

2. 次の「 」で示した部分は、ア. は音で、イ. は同じ漢字が含まれる熟字訓で読む。

- (1) ア. 甲「乙」 イ. 「乙女」(おつ、おんな)
- (2) ア. 「崩」壊 イ. 「雪崩」(ゆき、くず__れる)
- (3) ア. 「撲」滅 イ. 「相撲」(そう、ぼく)
- (4) ア. 「硫」酸 イ. 「硫黄」(りゅう、こう)

【資料67】(3年 P52)

漢字を確認しよう

(新しく習った漢字)

1. 次の「 」で示した部分には、新しく習った漢字が含まれる。語の意味を考えながら読もう。

- (1) チームの「中核」をになう。
- (2) 生活の「基盤」を固める。
- (3) 山頂からの眺めは「壯観」だ。
- (4) 「旬」の食べ物を味わう。
- (5) この勝利は、努力の「結晶」だ。

2. 次の「 」で示した部分は、同じ部首の漢字である。

- (1) とりへん(ひよみのとり)
ア. 「酢酸」を使った実験。(「さく」と「さん」)
イ. 「酵」素の働きを利用する。
ウ. 「酪」農がさかんな地域。
エ. 情状「酌」量の余地がある。
- (2) さんずい・みず
ア. 「滋」養強壯
イ. 日本「海溝」(「かい」と「こう」)
ウ. ゲーテに私「淑」する。

3. 次の「 」で示した熟語には、ア. イ. のどちらの漢字を用いるだろう。

- (1) 物語が「カキョウ」にいる。
ア. 佳境—非常によい場面。
イ. 架橋—橋を架ける。
- (2) 問題点が「ケンザイ」化する。
ア. 健在—元気で暮らしていること。
イ. 顕在—はっきりあらわれて存在すること。
- (3) 強国が「ハケン」を争う。
ア. 派遣—命じて出張させること。

イ. 覇権一競争者を抑えて得た権力。

(4) 「テンプ」の才の持ち主。

ア. 天賦一生まれつき

イ. 添付一添え付ること。

(新しく習う音訓)

1. 次の(1)～(4)の熟語について、()内の説明を参考にして同じ構成の熟語をア. ～ク. からそれぞれ二つずつ選ぼう。

(1) 忘恩 (わすれる、おん)

(2) 類似 (たぐい、にる)

(3) 迷路 (まよう、みち)

(4) 今昔 (いま、むかし)

ア. 岩室一岩石でおおわれた室。

イ. 修業一学問などを身に付けようと励むこと。

ウ. 貸借一貸すことと借りること。

エ. 仲介一物事をまとめるなかだち。

オ. 弓道一弓で射る技芸。

カ. 暴露一秘密などを明るみに出すこと。

キ. 深淺一深いことと浅いこと。

ク. 写経一経文を写すこと。

【資料68】 (3年 P53 上)

(体育祭での出来事を、さまざまな形態で表現した例)

体育祭での出来事

1. 六月三日、体育祭。
2. 場所は校庭。
3. 二組のリレーメンバー清水真希 (15) 他三名。
4. 清水一緊張するが、クラスの応援の声が聞こえて落ち着く。
5. 最後のリレーで一位になり、二組が逆転で学年優勝。

目的に応じた文章の形態と表現例

- (1) 気持ちや場面を生き生きと表現したい一物語
「大丈夫かな。」……真希は……
- (2) 事実を臨場感をもって伝えたい一報道文
六月三日、……その時の心境を……
- (3) 考えたことを意見として述べたい一意見文
中学校生活最後の……支えられているということだ。……

【資料69】 (3年 P55 下)

(取材メモの分類例)

1. 取材メモ
2. 掲載したい内容
3. 中心となる文章と素材の例

(心に残った場所)

1. 清水寺。……絶景だった。
 2. 行くまでの期待感や来たときの感動。
 3. 報道文、写真・コラム・年表
-
1. 天龍寺での座禅体験。……きっかけになった。

2. 体験を通して感じたこと、考えたこと。
3. 随筆、短歌・写真・Q&A

(心に残った出会い)

1. 京都市内を……教えてくださった。
2. お世話になった人々とのエピソード。
3. 紹介の文章、写真・四コマ漫画・感想

(忘れられない味)

1. お寺の……絶妙に合っていた。
2. 京都の味についてのグループ全員の感想。
3. 報道文、ランキング表・イラスト・お店の地図

【資料70】 (3年 P72 上)

「ざっくりとした説明」という表現について

1. 聞いたことがあるか。
聞いたことがある－70.6%
聞いたことがない－28.8%
わからない－1.2%
小数点以下
2位を四捨五入している。
2. 使ったことがあるか。
・・・ 1. で「聞いたことがある」と答えた人への質問
使ったことがある人の割合
16～19歳－約58.1%
20～29歳－約64.6%
30～39歳－約69.4%
40～49歳－約58.7%
50～59歳－約35.3%
60歳以上－約16.1%
「平成24年度 国語に関する世論調査」(文化庁)より

【資料71】 (3年 P122)

漢字を確認しよう
(新しく習った漢字)

1. 次の「 」で示した部分には、新しく習った漢字が含まれる。語の意味を考えながら読もう。
 - (1)「思慕」の念を抱く。
 - (2)「崇高」な理念を語る。
 - (3)「刹那」的な生き方だ。
 - (4)「牧畜」を営む。
 - (5) 手術で「麻酔」をかける。
 - (6)「靴下」を洗う。
2. 次の(1)～(4)の熟語について、()内の説明を参考にして同じ構成の熟語をア.～エ. から選ぼう。
 - (1)鍛錬(きたえる、ねる)

- (2) 凹凸（くぼむ、つきでる）
- (3) 併記（あわせる、しるす）
- (4) 募金（つもの、かね）
 - ア．解雇－仕事をやめさせること。
 - イ．繁閑－忙しいことと暇なこと。
 - ウ．濃紺－濃い紺色。
 - エ．珠玉－真珠と宝石。

3. 次の「 」で示した部分は、同じ部首の漢字である。それぞれの熟語の意味を調べよう。

- (1) にんべん・ひと
 - ア．小遣いを「儉」約する。
 - イ．会長を補「佐」する。
 - ウ．模「倣」と創造。
 - エ．「仙人」のつかう術。 （「せん」と「にん」）
- (2) つち
 - ア．ペンキで「塗」装する。
 - イ．美しい「塑」像。
 - ウ．「墮」落した生活。
 - エ．信用が失「墜」する。

（新しく習う音訓）

1. 次の「 」で示した部分は同じ漢字を用いる。語の意味を考えながら読もう。
- (1) 「乳」飲み子をあやす。 牛「乳」。
 - (2) 住所に小「字」が付く。 文「字」。
 - (3) 「氏」神様のお祭り。 住所「氏」名。
 - (4) 「故」あって退出する。 「故」意に行く。

【資料72】（3年P126）

1. 見出し

社説A－和食、無形文化遺産に もっと魅力を味わおう

社説B－無形文化遺産 和食の真価は何か

気づいたこと－Aは・・・、Bは・・・

2. 主張

社説A－学校や地域で和食の魅力を味わい、・・・

社説B－農村の再生や環境の保全など「食」を守る・・・

気づいたこと－・・・

3. 論理の展開

社説A－和食が世界に誇るべき特色

(1) 自然を大事にしている。

(2) 見て美しく楽しい。

社説B－登録への経緯

(1) 和食は異例の推薦。

(2) 京都の日本料理業界から。

気づいたこと－・・・

4. 表現・語句

社説A－「魅力」「誇るべき」など、肯定的な語が多い。

社説B－「共生」「信頼」「再生」などと、抽象的な語が多い。

気づいたこと－・・・

・・・

【資料73】（3年 P130-131）

1. 次の熟語の意味として合うものを、あとの選択肢から選ぼう。

- (1) 理性
- (2) 倫理
- (3) 普遍
- (4) 契約
- (5) 利潤
- (6) 猶予

- ア. 人としてあるべき生き方や道徳。
イ. 物事を決行する時を先に延ばすこと。
ウ. 物事を筋道立てて考え、判断する能力。
エ. すべてのものに当てはまること。
オ. 売買や貸し借りの約束を交わすこと。
カ. 企業などが得る利益。

2. 次の「 」で示した熟語の意味を、熟語を構成している言葉に注意して調べよう。

(例) 少子高齢化→しょうし□こうれい□か

- (1) 食品の「消費期限」を確かめる。
- (2) 「産業廃棄物」を処分する。
- (3) 日本の「食糧自給率」を調査する。
- (4) 「循環型社会」への移行を議題に上せる。
- (5) 「生物多様性」を維持する取り組みを支持する。
- (6) 国の「重要無形文化財」である歌舞伎を鑑賞する。

3. 次の「 」で示した熟語の類義語をあとの選択肢から選ぼう。

- (1) 休憩を取り、体力の「消耗」を抑える。
- (2) 他人に「隷属」することをよしとしない。
- (3) 事実を「克明」に描いた戯曲。
- (4) 甚だしい「侮辱」を受けて憤慨する。
- (5) 彼の作品は、他の「凡庸」な作品とは一線を画する。
- (6) 暴君が国外へ「放逐」される。
- (7) 政治家は「庶民」の訴えに耳を傾けるべきだ。
- (8) 不祥事を起こした委員の「罷免」要求が出される。
- (9) 政府によって反乱が「鎮圧」される。

- ア. 武力「制圧」
イ. 「恥辱」に堪える。
ウ. 「丹念」な仕事ぶり。
エ. 「追放」される。
オ. 懲戒「免職」
カ. 一般「大衆」
キ. 「平凡」な作品。
ク. 「消費」期限
ケ. 「従属」関係

4. 次の「 」で示した熟語の対義語をあとの選択肢から選ぼう。

- (1) 「静脈」注射をする。
- (2) 「既知」の概念。
- (3) 人口が「漸増」する。
- (4) 施設が「閉鎖」された。
- (5) 地面が「隆起」する。
- (6) 「叙情」的な文章。
- (7) 犯人を「逮捕」する。

(8) 社長のご「令嬢」。

- ア. 叙事
- イ. 釈放
- ウ. 開放
- エ. 漸減
- オ. 令息
- カ. 陥没
- キ. 動脈
- ク. 未知

5. 次の四字の熟語の意味を調べよう。

- (1) 戸籍謄本
- (2) 質実剛健
- (3) 舗装道路
- (4) 和洋折衷
- (5) 中枢神経
- (6) 綱紀粛正

6. 次の語句の意味を調べ、短い文を作ろう。

①～⑨を(1)～(9)に変更する。

【資料 74】 (3年 P220)

練習

次の1. 2. の俳句について、「 」で示した助詞をそれぞれあとのア. イ. に置き換えて比較し、意味や表現効果について考えよう。

1. 米洗う前「に」 蛍の二つ三つ
作者未詳

- ア. まえ「を」
- イ. まえ「え」

2. 6月「を」 綺麗な風の吹くことよ
正岡子規

- ア. 6月「に」
- イ. 6月「わ」

【資料 75】 (3年 P274～P275上)

次の同音異義語は、それぞれ意味を補足した。

- 戴「冠」式
- 法「曹」界
- 嗣子 (あととり)
- 「毀」損 (こわす)
- 禁「錮」刑
- 「勾」留期限
- 少「尉」 (将校の位)
- 元「帥」 (総大将)
- 「咽」喉 (のど)
- 汗「腺」 (汗を分泌する腺)
- 「虜」囚 (とりこ)
- 更「迭」人事
- 「矯」正 (欠点を直す)
- 「硝」酸銀
- 「蛮」勇 (向こう見ずの勇ましさ)

「通」信（郵便や電信を送り伝える）
一「隻」（船を数える単位）
老「翁」（年老いた男）
鼻「孔」（鼻の穴）
食「糧」（食物）
甲乙「丙」（第3の順位）
「憧」憬（あこがれ）
右「舷」（右の船べり）
覚「醒」（目を覚ます）
失「踪」（行方をくらます）
「冶」金（金属を加工する技術）
「妖」怪（化け物）

【資料76】（3年P165）漢字を確認しよう

（新しく習った漢字）

1. 次の「 」で示した部分には新しく習った漢字が含まれる。語の意味を考えながら読もう。

- (1) 博物館で「獵銃」を見る。
- (2) 「犬猿」の仲。
- (3) 「法廷」で争う。
- (4) 東西文化の「融合」。

2. 次の「 」で示した部分は、それぞれ異なる漢字である。それぞれの熟語の意味を調べよう。

- (1)
「娛」楽映画
「呉」服店
- (2)
「儒」教思想
「需」要拡大
- (3)
熊を「捕」獲する。
「哺」乳類
- (4)
「楷」書で書く。
俳「諧」を楽しむ。

3. 次の「 」で示した漢字は同じ部分をもつ。それぞれの熟語を読もう。

- (1)
ア. 親「密」になる。
イ. 胃液の分「泌」
ウ. 蜂「蜜」をなめる。
- (2)
ア. 「某」所に隠れる。
イ. 感染症を「媒」介する動物。
ウ. 選挙参「謀」
- (3)
ア. 赤字を補「填」する。
イ. 「慎」重な態度。
ウ. 「真」実を語る。
- (4)
ア. 「訃」報が届く。
イ. 素「朴」な音色。

ウ. 単身「赴」任

(5)

ア. 「願」望がかなう。

イ. 「頑」固な人。

ウ. 「煩」雑な手続き。

(6)

ア. 冬山を「征」服する。

イ. 身分「証」明書

ウ. 「正」確な計算。

4. 次の(1)～(4)で示した部首は、「」で示した漢字に使われている。確かめよう。

(1) わかんむり

ア. 「冗」長な文章。

イ. 金の王「冠」。

ウ. 「冥」福を祈る。

(2) くちへん

ア. 「叱」責を受ける。

イ. 「呪」文を唱える。

ウ. 「嗅」覚が鋭い。

(3) いとへん

ア. 「緩」慢な動作。

イ. 端「緒」を開く。

ウ. 事態が「紛糾」する。(「ふん」と「きゅう」)

(4) あめかんむり

ア. 濃「霧」注意報

イ. 「靈」感が強い。

ウ. 「零」細企業

(新しく習う音訓)

1. 次の「」で示した部分は、それぞれ音読みと訓読みの組み合わせが同じである。それぞれの熟語の意味を調べよう。

(1) とともに音読み

ア. お「歳暮」を贈る。(「せい」と「ぼ」)

イ. 「若輩」者(「じゃく」と「はい」)

(2) 音読みと訓読み

ア. 「石高」が上がる。(「こく」と「たか__い」)

イ. 「反物」を仕入れる。(「たん」と「もの」)

(3) 訓読みと音読み

ア. 祖母の「新盆」。(「にい」と「ぼん」)

イ. 思い出の「場所」。(「ば」と「しょ」)

(4) とともに訓読み

ア. 「小銭」で払う。(「こ」と「ぜに」)

イ. 「中州」でつりをする。(「なか」と「す」)

【資料77】(3年P173)

(ポスター広告の例)

「ねえ、ボクのぶんは・・・？」(キャッチコピー)

(絵の説明)

カウンターの左手前に大人、右奥に子供が座っている。

大人は左から回転寿司のように流れてくる皿を取ろうとしている。
皿の上には、「海洋」「エネルギー」「森林」が載っている。
大人の前のカウンターには、空いた皿が山積みになっている。
子供のところまで皿は一枚も流れてこない。

(ポスターの文面)

知っていますか？

子供たちが将来使う資源を、私たちが「今」使っていることを。

このままでの暮らしでは、地球一つだと足りません。未来の分のエネルギーや食料が心配です。

「地球にちょうどいい暮らし」をはじめませんか。

【資料78】 (3年P173)

1. 前の広告例を、次の表に沿って分析し、友達と比べてみよう。

観点—具体的な特徴

キャッチコピー—子供のせりふを使って・・・

絵—・・・

考えたこと (発想・作り手の意図など)

(例)

この広告がいちばん伝えたいことは・・・ (ということ) である。

この広告のおもしろさ (よさ) は、それを・・・で表現したところにある。

【資料79】 (3年P174)

(ポスター広告の例)

(キャッチコピー)

発見!! わたしのとなりには先生がいっぱい!!

あなたも、きっと誰かの「となりの先生」です。

漢字を教える「国語の先生」や、おつりを教える「算数の先生」。地域のつながりの中で、あなたはどの先生でしょう。考えてみませんか？

(写真の説明)

商店街の一角に、6人の人物と1匹の猫が並んでいる。

魚屋さん「さんすう」

八百屋さん「こくご」

猫「せいぶつ」

わたし

おばあさん「れきし」

外国人の青年「えいご」

トランペットの少年「おんがく」

【資料80】 (3年P207～209) 漢字のまとめ

1. 次の各組の「 」で示した部分は、同じ部首の漢字である。

(1) たけかんむり

ア. 名「簿」

イ. 点「筆」

- (2)かねへん
ア. 「鍋」釜
イ. 「鎌」倉時代
- (3)おんなへん
ア. オ「媛」
イ. 白雪「姫」
- (4)ひらび・ひへん
ア. 「暫時」(「ざん」と「じ」)
イ. 薄「暮」
- (5)くにがまえ
ア. 「囚」獄
イ. 「因」果関係
- (6)こざとへん
ア. 丘「陵」を越える。
イ. 「降」参する。
- (7)ころもへん
ア. 「裕」福な家。
イ. 「補」強する。
- (8)おおざと
ア. 在留「邦」人
イ. 「郷」土料理
- (9)しかばね
ア. 「尿」素
イ. 「屋」根
- (10)ごんべん
ア. 楽「譜」を読む。
イ. 「論」理的

2. 次の「 」で示した部分は同じ漢字である。それぞれの語の意味を調べよう。

- (1)
貴「重」な体験をする。
「重」荷を背負う。
八「重」桜を見る。
人権の尊「重」。
効率を「重」視する。
- (2)
「神」経を研ぎ澄ます。
「神」主が祝詞を上げる。
「神」聖な場所。
「神」宮へ詣でる。
- (3)
「早」春の気配を感じる。
「早」速出かける。
「早」寝早起き。
「早」熟な子ども。
- (4)
委員長に任「命」する。
宿「命」のライバル。
寿「命」が延びる。
「命」綱を付ける。
- (5)
現「役」引退を示唆する。

「役」職につく。
使「役」に駆り出される。
自分にぴったりの「役」柄。

(6)

せみが「羽」化する。
千「羽」づるを折る。
「羽」毛布団をかける。
天女の「羽」衣。

(7)

父「兄」が同伴する。
「兄」嫁が手伝う。
長「兄」の持ち物。
義「兄」弟になる。

(8)

初「夏」を思わせる気温。
「夏」至の日。
「夏」山登山
晩「夏」の候。

(9)

俳優の「声」色をまねる。
名「声」を得る。
「声」高に叫ぶ。
小「声」で話す。

(10)

京「浜」工業地帯
「京」都に旅行する。
「京」阪地方
電車で上「京」する。

3. 次の「 」で示した部分は同じ漢字で、ア. は音読みでイ. は訓読みである。確かめよう。

(1)

ア. 「眼」科に通う。
イ. 「まなこ」を見開く。

(2)

ア. 大会の日「程」が決まる。
イ. 実力の「程」を知る。

(3)

ア. 「鋼」鉄の扉。
イ. 「鋼」のような肉体。

(4)

ア. 一朝一「夕」にはできない。
イ. 「夕」立が降る。

(5)

ア. 野球を観「戦」する。
イ. 勝ち「戦」になる。

(6)

ア. 耳「鼻」科に行く。
イ. 「鼻」歌を歌う。

(7)

ア. 「牧」場で馬に乗る。
イ. 緑の「牧」場。

(8)

- ア. 「黄」金時代を築く。
- イ. 「黄」金色に実る麦。

4. 次の「 」で示した部分は違う漢字が使われている。それぞれの意味を調べよう。

(1)

- 休日はもっぱら湖「畔」でつりをする。
- 保護者が同「伴」する。

(2)

- 戦後、財「閥」の解体が行われた。
- 鬼を征「伐」する。

(3)

- 「胎」児の健康状態を診る。
- 「怠」惰な生活を送る。

(4)

- 日本最古の貨「幣」が出土した。
- 「弊」害が生じる。

(5)

- 「該」当する項目。
- 弾「劾」裁判所

(6)

- 緑のない「褐」色の大地が広がる。
- 本質を「喝」破する。

(7)

- 各官庁の管「轄」する仕事を調べる。
- 分「割」払いをする。

(8)

- 相手チームの作戦の「盲」点をつく。
- 被害「妄」想に陥る。

(9)

- 目撃者が法「廷」で証言する。
- 日本「庭」園の中を歩く。
- 小型船「艇」に乗る。

(10)

- 病気が完全に治「癒」する。
- 警官に説「諭」される。
- 「愉」快な歌を歌う。

5. 次の(1)～(5)の熟語について、()内を参考にして、同じ構成の熟語をア.～オ. から選ぼう。

- (1) 豊富 (豊かと富む) 皮膚 (皮とはだ)
- (2) 表裏 (表と裏) 伸縮 (伸びることと縮むこと)
- (3) 市営 (市が営む) 私製 (わたくしが作る)
- (4) 花園 (花の園) 沃土 (肥えた土)
- (5) 受講 (講習を受ける) 匿名 (名を隠す)

(選択肢)

- ア. 水槽 (水を入れる容器)
- イ. 旋回 (めぐると回る)
- ウ. 清濁 (清いことと濁っていること)
- エ. 殉教 (宗教のために命を犠牲にすること)
- オ. 円高 (円の価値が高い)

6. 次の「 」で示した部分は、それぞれ音読みと訓読みの組み合わせが同じである。それぞれの熟語の意味を調べよう。

(1) ともに音読み

- ア. 「戦慄」すべき事件。 (「せん」と「りつ」)
- イ. 今年の夏も「酷暑」だ。 (「こく」と「しょ」)

(2) ともに訓読み

- ア. 「渋柿」をほす。 (「しぶ」と「かき」)
- イ. 「蚊柱」が立つ。 (「か」と「はしら」)

(3) 音読みと訓読み

- ア. 「朱色」の絵の具。 (「しゅ」と「いろ」)
- イ. 「茶臼」で抹茶を作る。 (「ちゃ」と「うす」)

(4) 訓読みと音読み

- ア. 「荒行」を行う。 (「あら」と「ぎょう」)
- イ. 「瓦版」を読む。 (「かわら」と「ばん」)

7. 次の四字熟語の意味を調べよう。

- (1) 竜頭蛇尾
- (2) 深山幽谷
- (3) 勇猛果敢
- (4) 時期尚早
- (5) 傲岸不遜
- (6) 拍手喝采

8. 次のア. イ. の文について「 」で示した部分は、それぞれ同訓異字の漢字である。文の後に示した音読みを参考にして、各文の漢字の意味を調べ、それぞれ熟語を作ってみよう。

(1) 「たず」ねる

- ア. 学生寮に住む兄を「訪」ねる。(音は「ほう」)
- イ. 友達に明日の予定を「尋」ねる。(音は「じん」)

(2) 「しば」る

- ア. 雑巾を「絞」る。(音は「こう」)
- イ. やぎの乳を「搾」る。(音は「さく」)

(3) 「わざ」

- ア. 柔道の「技」が決まる。(音は「ぎ」)
- イ. ピエロが軽「業」を披露する。(音は「ぎょう」)

(4) 「う」る

- ア. 彼の話は教訓に富み、「得」るところが大きい。(音は「とく」)
- イ. 取れたての野菜を地元で「売」る。(音は「ばい」)

9. 次の「 」で示した部分と同じ熟語を、それぞれ後のア. イ. から選ぼう。

(1) スマートフォンの「普及」がめざましい。

- ア. 「不朽」の名作を読み、感動する。
- イ. 「普及」版のモデルは価格が安い。

(2) 音楽の授業で「童謡」を歌う。

- ア. 戦前の「童謡」を集めた本。
- イ. 心の「動揺」を隠す。

(3) 細かい「意匠」が施された器。

- ア. 斬新な「意匠」の服。
- イ. 花嫁「衣装」。

(4) 開発計画に「変更」が生じる。

- ア. 進路を「変更」する。
- イ. 考え方が「偏向」している。

- (5) 絵画のコンクールで「表彰」される。
ア. 功労者を「表彰」する。
イ. 意識に現れるイメージを「表象」という。
- (6) 地産地消を「奨励」する。
ア. 「症例」が少ない病気。
イ. 研究に「奨励」金が出る。
- (7) 「羞恥」のあまり、赤面する。
ア. 「羞恥」の念にかられる。
イ. 連絡を「周知」徹底させる。

10. 次の「 」で示した部分は、それぞれ訓読みの漢字である。語の意味を考えながら読もう。

- (1) 新鮮な海の「幸」に、「箸」が進む。
(2) 宗家の先生から、お「褒」めの言葉を「賜」る。
(3) 花の「香」りを「嗅」いで気分が「和」らいだ。
(4) 「辺」りは「巖」かな空気に「包」まれた。
(5) 各地で花が「咲」き、春も「盛」りだ。

11. 次の「 」で示した熟語の意味を調べよう。

- (1) 「食欲」に学ぼうとする態度。
(2) 応募の「必須」条件を確認する。
(3) 昼食に「麺類」を食べに行く。
(4) 「恣意」的な判断を批判する。
(5) この方法は「汎用」性が高い。
(6) クラスの「親睦」を深める。
(7) 「辛辣」な意見を聞く。
(8) 悪天候が続き、「憂鬱」な気分になる。
(9) 「怨念」にまつわる伝説。
(10) 「船舶」の操縦免許を取得する。
(11) 「収賄」の疑いがかかる。

12. 次の都道府県名には、新しく学習する漢字が含まれている。読んでみよう。

- (1) 茨城県
(2) 栃木県
(3) 埼玉県
(4) 神奈川県
(5) 岐阜県
(6) 鹿児島県